Sun Java™ System

Sun Java Enterprise System 2003Q4 配備実例集：評価のシナリオ

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 817-7674

Copyright © 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、この製品に含まれるテクノロジに関する知的所有権を保持しています。特に限定されることなく、これらの知的所有権は http://www.sun.com/patents に記載されている 1 つ以上の米国特許および米国およびその他の国における 1 つ以上の追加特許または特許出願中のものが含まれている場合があります。

このソフトウェアは SUN MICROSYSTEMS, INC. の機密情報と企業秘密を含んでいます。SUN MICROSYSTEMS, INC. の書面による許諾を受けることなく、このソフトウェアを使用、開示、複製することは禁じられています。

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Solaris、JDK, Java Naming and Directory Interface、JavaMail、JavaHelp、J2SE、iPlanet、Duke のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴ、Solaris のロゴ、SunTone 認定ロゴマークおよび Sun ONE ロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

Legato および Legato のロゴマークは Legato Systems, Inc. の商標であり、Legato NetWorker は同社の商標または登録商標です。

Netscape Communications Corp のロゴマークは Netscape Communications Corporation の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト (輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む) に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

目 次

図目次 7

表目次 9

手順一覧 11

はじめに 13

対象読者 13
マニュアルの使用 14
表記規則 15
Web 上の参考資料 16
お問い合わせ先 17
ご意見、ご要望の送付先 17

第 1 章 評価のシナリオの概要 19
Java Enterprise System について 19
評価配備のシナリオについて 20
評価の使用例 20
配備のシナリオ 21
論理アーキテクチャ 21
システム要件 23
配備アーキテクチャの評価配備例 23
評価シナリオ手順の概要 25
評価配備例の目標 26

第 2 章 Java Enterprise System 評価配備のインストール 27
インストール要件の確認 28

コンポーネントのインストール 28
インストーラを起動するには 28
インストールするコンポーネントを選択するには 30
設定の種類を指定するには 34
共通サーバー設定を入力するには 36
Web Server の情報を入力するには 36
Application Server の情報を入力するには 36
Directory Server の情報を入力するには 37
管理サーバーの情報を入力するには 37
Directory Proxy Server の情報を入力するには 38
Identity Server の情報を入力するには 38
Portal Server の情報を入力するには 43
Portal Server, Secure Remote Access の情報を入力するには 44
インストールを完了するには 46
コンポーネントのアンインストール 48

第 3 章 Java Enterprise System の設定 49
設定処理について 50
Directory Server のデフォルトインスタンスの確認 50
Directory Server のインストールの確認 51
インストールログファイルを確認し、インストールを確認するには 51
管理サーバーの起動 51
管理サーバーを起動するには 51
Directory Server のデフォルトインスタンスの起動 52
Directory Server のデフォルトインスタンスを起動するには 52
Directory Server インスタンスを確認するための、Sun ONE Server コンソールの使用 52
Sun ONE Server コンソールを起動および使用するには 52
Application Server のデフォルトインスタンスの確認 56
Application Server 管理サーバーの起動 56
Application Server 管理サーバープロセスを開始するには 56
Application Server のデフォルトインスタンスの起動 56
Application Server オンラインマニュアルの使用 58
Identity Server のデフォルトインスタンスの確認 59
Identity Server 管理コンソールにログインし、Identity Server を確認するには 59
Portal Server のデフォルトインスタンスの確認 61
サンプルポータルを表示し、Portal Server のデフォルトインスタンスを確認するには 61
Messaging Server インスタンスの設定 62
Directory Server 準備ツールの実行 63
Directory Server 準備ツールを実行するには 63
Directory Server の設定の確認 66
Directory Server が共有ユーザーディレクトリとして設定されたことを確認するには 66
Messaging Server インスタンスの作成 70
Messaging Server 設定ウィザードを実行するには 70

Calendar Server インスタンスの設定 76

第 4 章 Java Enterprise System ユーザーのプロビジョニング 81
Java Enterprise System ユーザーのプロビジョニングについて 81
Identity Server のプロビジョニングツールとしての使用 82
Identity Server サービスの Identity Server へのインポート 82
Identity Server サービスを Identity Server にインポートするには 83
Identity Server サービスの登録 84
管理サーバードメインに使用するサンプルサービスを登録するには 84
ユーザーの組織にサンプルサービスを登録するには 88
サンプルエンドユーザーのプロビジョニング 91
サンプルエンドユーザーをプロビジョニングするには 91

第 5 章 Java Enterprise System サービスへのエンドユーザーアクセスの確認 97
Portal Server へのエンドユーザーアクセスの確認 97
Portal Server へのエンドユーザーアクセスを確認するには 97
Messenger Express へのユーザーアクセスの確認 98
Messenger Express へのエンドユーザーアクセスを確認するには 98
Calendar Express へのユーザーアクセスの確認 100
Calendar Express へのエンドユーザーアクセスを確認するには 100

第 6 章 シングルサインオン (SSO) の設定 103
シングルサインオンの概要 103
Messaging Server のシングルサインオン用の設定 104
SSO 用に Messaging Server を設定するには 104
Calendar Server のシングルサインオン用の設定 105
SSO 用に Calendar Server を設定するには 105
シングルサインオンの設定の確認 106
SSO を使用するサービスへのエンドユーザーのアクセスを確認するには 106

第 7 章 プロキシ認証の設定 109
プロキシ認証について 109
ポータル「カレンダー」チャネルのプロキシ認証用の設定 110
SSO アダプタサービス用にポータル「カレンダー」チャネルを設定するには 110
ポータル「メール」チャネルのプロキシ認証用の設定 113
SSO アダプタサービス用にポータル「メール」チャネルを設定するには 113
プロキシ認証用の Messaging Server の設定 114
プロキシ認証用に Messaging Server を設定するには 114
プロキシ認証用の Calendar Server の設定 115
プロキシ認証用に Calendar Server を設定するには 115
プロキシ認証の確認 116
プロキシ認証が機能することを確認するには 116

索引 **119**

図目次

図 1-1 論理アーキテクチャの評価配備例 22
図 1-2 配備アーキテクチャの評価配備例 24
図 2-1 「コンポーネントの選択」ページ 30
図 2-2 コンポーネント製品の依存性の警告メッセージ 32
図 2-3 「質問」ダイアログ 33
図 2-4 「共有サーバー設定」ページ 35
図 2-5 「アイデンティティサーバー : 管理者」ページ 38
図 2-6 「アイデンティティサーバー : Web コンテナ (2 / 6)」ページ 39
図 2-7 「アイデンティティサーバー : Sun ONE Application Server (3 / 6)」ページ 40
図 2-8 「アイデンティティサーバー : ディレクトリサーバー情報」ページ 41
図 2-9 「アイデンティティサーバー : ディレクトリサーバー情報」ページ 42
図 2-10 「ポータルサーバー : Web コンテナ」ページ 43
図 2-11 「ポータルサーバー、セキュアリモートアクセス : ゲートウェイ情報」ページ 44
図 2-12 「ポータルサーバー、セキュアリモートアクセス証明書」ページ 45
図 2-13 「インストールの準備が完了しています」ページ 46
図 2-14 「共有コンポーネントのアップグレード」メッセージ 47
図 2-15 「インストールが完了しました」ページ 48
図 3-1 Sun ONE Server コンソールの「サーバーとアプリケーション」タブ 53
図 3-2 Sun ONE Server コンソールの「Sun ONE Directory Server」ウィンドウ 55
図 3-3 Sun ONE Application Server コンソールウィンドウ 57
図 3-4 Sun ONE Identity Server 管理コンソール 60
図 3-5 Sun ONE Portal Server サンプルポータルデスクトップ 61
図 3-6 Sun ONE Server コンソール 67
図 3-7 「Sun ONE Directory Server」ウィンドウ 68
図 3-8 「汎用エディタ」. 69

図 3-9 「Create New Directory」メッセージ 71
図 3-10 「Ports In Use」メッセージ 74
図 3-11 「Installation Summary」ページ 75
図 3-12 「Question」ダイアログ 77
図 3-13 「Problem Connection to SMTP Host」ダイアログ 78
図 3-14 「Create New User ID」ダイアログ 79
図 4-1 Sun ONE Identity Server コンソール 85
図 4-2 サービスのリストの表示 86
図 4-3 ドメインへのサービス登録 87
図 4-4 例のドメインの組織のリスト 88
図 4-5 組織の選択 89
図 4-6 Example.Com 組織のサービスの表示 90
図 4-7 Sun ONE Identity Server コンソールウィンドウ 91
図 4-8 「新規ユーザー」フィールド 92
図 4-9 Sample Calendar Server Service のプロパティ 93
図 4-10 Sample Mail Server Service のプロパティ 94
図 5-1 Sun ONE Messenger Express のメインウィンドウ 99
図 5-2 Sun ONE Calendar Express のメインウィンドウ 100
図 5-3 「イベントの編集」ウィンドウ 101
図 7-1 SSO アダプタプロパティ 111
図 7-2 サンプルポータルデスクトップ 117

表目次

表 1　システム全体に関するマニュアル 14
表 2　文字表記の規則 15
表 3　可変部分の表記規則 15
表 4　記号の表記規則 15
表 3-1　Directory Server 準備ツールの入力値 65

手順一覧

インストーラを起動するには 28
インストールするコンポーネントを選択するには 30
設定の種類を指定するには 34
共通サーバー設定を入力するには 36
Web Server の情報を入力するには 36
Application Server の情報を入力するには 36
Directory Server の情報を入力するには 37
管理サーバーの情報を入力するには 37
Directory Proxy Server の情報を入力するには 38
Identity Server の情報を入力するには 38
Portal Server の情報を入力するには 43
Portal Server, Secure Remote Access の情報を入力するには 44
インストールを完了するには 46
インストールログファイルを確認し、インストールを確認するには 51
管理サーバーを起動するには 51
Directory Server のデフォルトインスタンスを起動するには 52
Sun ONE Server コンソールを起動および使用するには 52
Application Server 管理サーバープロセスを開始するには 56
Identity Server 管理コンソールにログインし、Identity Server を確認するには 59
サンプルポータルを表示し、Portal Server のデフォルトインスタンスを確認するには 61
Directory Server 準備ツールを実行するには 63
Directory Server が共有ユーザーディレクトリとして設定されたことを確認するには 66
Messaging Server 設定ウィザードを実行するには 70
Identity Server サービスを Identity Server にインポートするには 83
管理サーバードメインに使用するサンプルサービスを登録するには 84
ユーザーの組織にサンプルサービスを登録するには 88
サンプルエンドユーザーをプロビジョニングするには 91
Portal Server へのエンドユーザーアクセスを確認するには 97
Messenger Express へのエンドユーザーアクセスを確認するには 98
Calendar Express へのエンドユーザーアクセスを確認するには 100
SSO 用に Messaging Server を設定するには 104

SSO 用に Calendar Server を設定するには 105
SSO を使用するサービスへのエンドユーザーのアクセスを確認するには 106
SSO アダプタサービス用にポータル「カレンダー」チャネルを設定するには 110
SSO アダプタサービス用にポータル「メール」チャネルを設定するには 113
プロキシ認証用に Messaging Server を設定するには 114
プロキシ認証用に Calendar Server を設定するには 115
プロキシ認証が機能することを確認するには 116

はじめに

『Sun Java Enterprise System 配備実例集 : 評価のシナリオ』は、Sun Java™ Enterprise System を、1 台のコンピュータにインストールする方法、また一連の核となる共有ネットワークサービスを確立し、設定したサービスを使用する方法について説明します。

この章で説明する項目は次のとおりです。

- 「対象読者」
- 14 ページの「マニュアルの使用」
- 15 ページの「表記規則」
- 16 ページの「Web 上の参考資料」
- 17 ページの「お問い合わせ先」
- 17 ページの「ご意見、ご要望の送付先」

このマニュアルで解説しているタスクを実行する前に、『Java Enterprise System リリースノート』をお読みください。詳細については、14 ページの「マニュアルの使用」、および Java Enterprise System マニュアルへのリンクを参照してください。

対象読者

このマニュアルは、Java Enterprise System をインストールし評価する評価担当者、システム管理者、およびインストール技術者を対象としています。

このマニュアルは、次の事項に習熟している方を対象に記述されています。

- UNIX® オペレーティングシステム
- インターネットプロトコル (IP) コンピュータネットワーク
- エンタープライズレベルのソフトウェア製品のインストール

マニュアルの使用

Java Enterprise System のマニュアルは、PDF (Portable Document Format) 形式および HTML (Hypertext Markup Language) 形式のオンラインファイルとして用意されています。どちらの形式のファイルも、障害を持つユーザーにも参照可能です。Sun のマニュアルには、次の Web サイトからアクセスできます。

http://docs.sun.com

Java Enterprise System マニュアルには次の場所からアクセスできます。

http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja

次の表は、Java Enterprise System マニュアルで説明されているタスクおよび概念を示しています。表の左側の列は、探している情報の種類、表の右側の列は情報が記載されている箇所を示しています。

表 1 システム全体に関するマニュアル

マニュアル名	内容
『Java Enterprise System リリースノート』 http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja	既知の問題など、Java Enterprise System に関する最新の情報が記載されています。これ以外に、コンポーネント製品ごとにリリースノートがあります。
『Java Enterprise System ドキュメントロードマップ』 http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja	Java Enterprise System に関するマニュアルについて説明しています。ここからコンポーネント製品に関連するマニュアルにリンクすることができます。
『Java Enterprise System 技術の概要』 http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja	Java Enterprise System のマニュアルで使用される技術概念と用語について説明します。Java Enterprise System、そのコンポーネント、および分散型のエンタープライズアプリケーションをサポートする役割について解説します。また、ライフサイクルの概念 (システム配備に関する序論を含む) についても説明します。
『Java Enterprise System インストールガイド』 http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja	Java Enterprise System のインストールプロセスについて解説します。インストールするコンポーネント製品を選択する方法、インストールするコンポーネント製品を設定する方法、インストールしたソフトウェアが正常に機能するかどうかを検証する方法について説明します。また、ユーザーのプロビジョニングやシングルサインオンの設定など、基本的な管理タスクの実行方法についても説明します。
『Java Enterprise System Glossary』 http://docs.sun.com/doc/816-6873	Java Enterprise System のマニュアルで使用される用語を定義しています。

表記規則

次の表は、このマニュアルで使用される文字表記の規則を示しています。

表 2　文字表記の規則

表記	意味	例
`AaBbCc123` (モノスペース)	API および言語の要素、HTML タグ、Web サイトの URL、コマンド名、ファイル名、ディレクトリパス名、画面出力の表示、サンプルコード	`.login` ファイルを編集します。 `ls -a` を使用してすべてのファイルを表示します。 `% You have mail.`
`AaBbCc123` (太字のモノスペース)	画面出力の表示に対し、ユーザーが入力する文字	`%` **`su`** `Password:`
AaBbCc123 (イタリック)	実際の名前や値に置き換えられるコマンド行変数	ファイルは、*is_svr_base*`/bin` ディレクトリに格納されています。

次の表は、このマニュアルで使用される可変部分の表記規則を示しています。

表 3　可変部分の表記規則

項目	意味	例
product_base	製品をインストールするディレクトリを表わす	次に *is_svr_base*`/bin` ディレクトリの例を示します。 `/opt/SUNWam/bin`

次の表は、このマニュアルで使用される記号の表記規則を示しています。

表 4　記号の表記規則

記号	意味	表記法	例
`[ ]`	省略できるコマンドオプションを含む	`O[`*n*`]`	`O4, O`
`{ }`	必須コマンドオプションの選択肢を含む	`d{y|n}`	`dy`
`|`	コマンドオプションの選択肢を区切る		

表 4　記号の表記規則 (続き)

記号	意味	表記法	例
+	グラフィカルユーザーインタフェースで使用されるキーボードショートカットで、同時に押すキーを連結する		Ctrl+A
-	グラフィカルユーザーインタフェースで使用されるキーボードショートカットで、連続して押すキーを連結する		Esc-S
>	グラフィカルユーザーインタフェースで選択するメニュー項目を示す		「ファイル」>「新規」 「ファイル」>「新規」>「テンプレート」

Web 上の参考資料

次の場所には、Java Enterprise System およびそのコンポーネント製品に関する情報が用意されています。

```
http://wwws.sun.com/software/learnabout/enterprisesystem/index.html
```

このマニュアルには、補足的な関連情報を提供するために、サードパーティの URL も記載されています。

注　Sun は、このマニュアルに記載されているサードパーティの Web サイトが利用可能かどうかについて責任を負いません。Sun は、このようなサイトまたはリソースで得られるあらゆる内容、広告、製品、およびその他の資料を保証するものではなく、責任または義務を負いません。Sun は、このようなサイトまたはリソースで得られるあらゆるコンテンツ、製品、またはサービスによって生じる、または使用に関連して生じる、または信頼することによって生じる、または生じたと主張される、いかなる損害または損失についても責任または義務を負いません。

お問い合わせ先

Java Enterprise System の使用にあたって問題が発生した場合は、次のいずれかの方法で Sun のカスタマーサポートに連絡してください。

- Sun Software Support サービス

  `http://www.sun.com/service/sunone/software`

  このサイトには、「Knowledge Base」、「Online Support Center」、および「ProductTracker」へのリンクがあります。また、保守プログラム、およびサポートの問い合わせ先電話番号を参照することもできます。

- 保守契約に規定されている緊急電話番号

できるだけ適切に問題に対処するために、お問い合わせの際には次の情報をお知らせください。

- 問題の詳細な内容 (発生状況や業務への影響の度合など)
- 使用しているマシンの種類、オペレーティングシステムのバージョン、製品のバージョン (すべてのパッチや、問題に影響している可能性のあるその他のソフトウェアを含む)
- 問題を再現するための詳細な手順
- エラーログまたはコアダンプ

ご意見、ご要望の送付先

Sun ではマニュアルの品質向上のため、お客様のご意見、ご要望をお受けしております。次の Web ベースの書式を利用して Sun までフィードバックをお寄せください。

`http://www.sun.com/hwdocs/feedback/`

各フィールドにマニュアルの正式名称と Part No. をご記入ください。Part No. は、マニュアルのタイトルページまたは最上部に記載されている 7 桁または 9 桁の番号です。たとえば、この『配備実例集 : 評価のシナリオ』の Part No. は、817-7674 です。

第 1 章

評価のシナリオの概要

この章では、この配備のシナリオの目的、この配備のシナリオで使用されるアーキテクチャ、および Sun Java™ Enterprise System をインストール、設定、使用するために実行する、この配備のシナリオでの手順について説明します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 「Java Enterprise System について」
- 20 ページの「評価配備のシナリオについて」
- 25 ページの「評価シナリオ手順の概要」
- 26 ページの「評価配備例の目標」

Java Enterprise System について

Java Enterprise System は、企業における広範囲なコンピュータに対する要求をサポートするソフトウェアです。たとえば、セキュリティ保護されたイントラネットポータルを作成することによって、企業の従業員が電子メールや社内ビジネスアプリケーションにセキュリティ保護されたアクセスができるようにします。

Java Enterprise System は、Sun™ ONE Directory Server および Sun ONE Identity Server などのソフトウェアコンポーネントで構成されています。さまざまな企業のコンピュータに対する要求に対応するために、Java Enterprise System のコンポーネントは何通りもの方法で組み合わせることができます。

各企業は自社の要求を見極め、独自の Java Enterprise System コンポーネントの配備を計画します。ある企業にとっての最適な配備は、Java Enterprise System がサポートしているアプリケーションの種類、ユーザー数、使用できるハードウェアの種類や、その他の考慮点によって異なります。

Java Enterprise System は、カスタムの分散型のエンタープライズアプリケーションをサポートしていますが、カスタムのプログラミングを必要としないエンドユーザーサービスも多く提供しています。この配備例では、カスタムのアプリケーションプログラミングを行わずに、一連の核となる共有ネットワークサービスの設定を行う方法について説明します。

Java Enterprise System の技術概念および用語集の詳細については、『Java Enterprise System 技術の概要』(http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja) を参照してください。

評価配備のシナリオについて

この配備例では、システムを評価するために、1 台のコンピュータに Java Enterprise System コンポーネントをインストールする方法について説明します。Java Enterprise System をインストールするほかに、この配備例では、システムのコンポーネントが連携して機能し、基本的な企業向けサービスを提供するための設定方法について説明します。

ここでは、評価配備例用に配備アーキテクチャを開発した方法について説明します。

評価の使用例

この配備例で説明されているシステムの評価は、次の場合に使用されます。

- インストーラを使用する場合 : デフォルト値を使用して、1 台のマシンに Java Enterprise System コンポーネントをインストールする
- コンポーネントのインスタンスの設定を使用する場合 : Java Enterprise System 管理インタフェースを使用して、コンポーネントのインスタンスを設定する
- 管理者が使用する場合 : 1 人のエンドユーザーをプロビジョニングする
- エンドユーザーが使用する場合 : メールサービス、カレンダサービス、およびポータルサービスと対話して、インストール、およびシステムコンポーネントの設定が正常に行われたことを実証する
- 管理者が使用する場合 : Identity Server シングルサインオン (SSO) を設定する
- エンドユーザーが使用する場合 : メールサービス、カレンダサービス、およびポータルサービスと対話して、SSO が正常に設定されていることを実証する
- 管理者が使用する場合 : プロキシ認証を設定する
- エンドユーザーが使用する場合 : ポータルデスクトップを使用してメールサービスおよびカレンダサービスと対話して、プロキシ認証が正常に設定されていることを実証する

これらの使用例は、メッセージングサービスおよびカレンダサービス、およびこれらのサービスにアクセスできるエンドユーザーを含めた、実用的な Java Enterprise System を設定する方法を示しています。

配備のシナリオ

ここでは、20 ページの「評価の使用例」のリストにある、評価使用例のために開発された配備のシナリオについて説明します。この配備のシナリオは、論理アーキテクチャとシステム要件という 2 つの要素から構成されています。

論理アーキテクチャ

論理アーキテクチャは、この使用例で説明されているサービスを提供する Java Enterprise System コンポーネントを特定します。この評価使用例のために開発された論理アーキテクチャを、図 1-1 に示します。

図 1-1　論理アーキテクチャの評価配備例

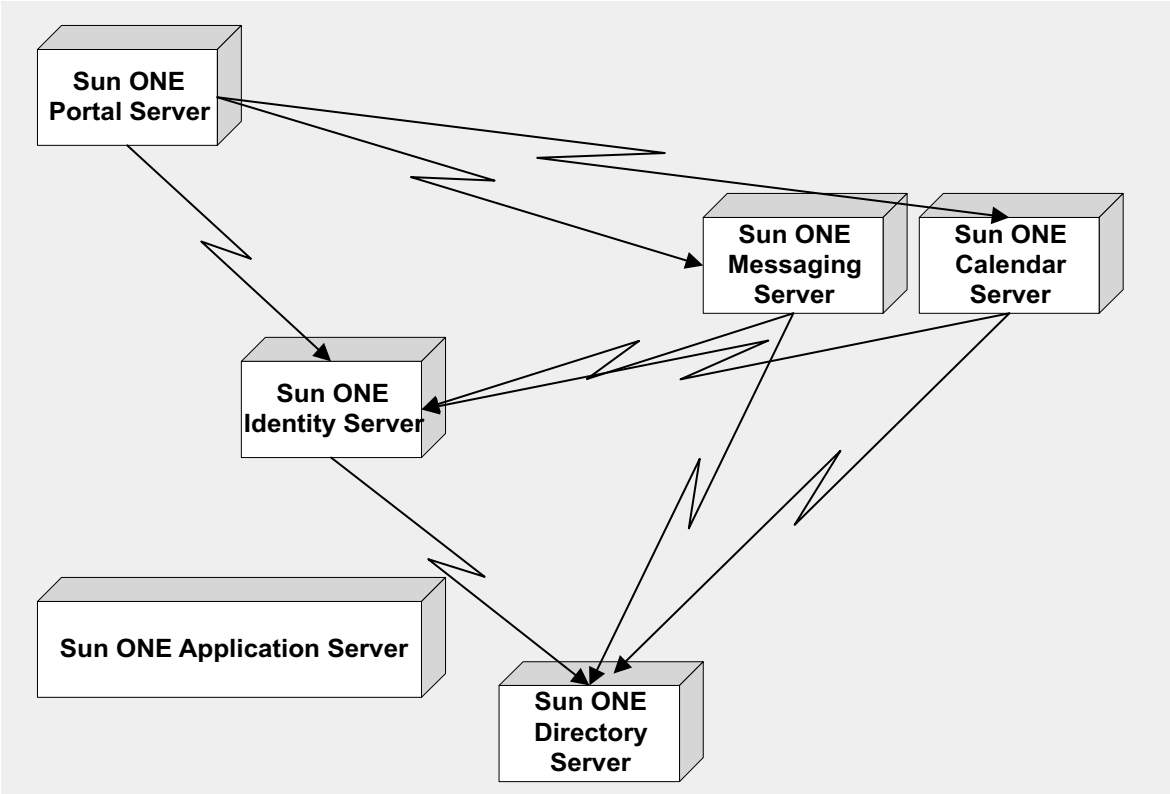


図 1-2 のコンポーネントの配置は、次に示す、この論理アーキテクチャの特性を表しています。

- Application Server および Directory Server は他のコンポーネントをサポートする。このため、これらのサーバーは他のサーバーより下に配置される
- Portal Server および Identity Server は Application Server の Web コンテナで実行される。このため、これらのサーバーは、Application Server のすぐ上に配置される
- Portal Server は、エンドユーザーにより直接アクセスされる。このため、このサーバーは一番上に配置される

- Messaging Server および Calendar Server は、Application Server の Web コンテナに依存しない。これらのサーバーは独自の Web コンテナで実行される。Messaging Server と Calendar Server は、Directory Server により提供されるサービスに依存する。このため、これらのサーバーは、Application Server および Directory Server より上に配置されるが、他のいずれのサーバーのすぐ上には配置されない

システム要件

システム要件は、論理アーキテクチャで指定されていない配備の重要な特性を指定します。評価配備例のシステム要件を次に示します。

- 負荷およびパフォーマンスの要件 : なし
- 可用性の要件 : なし
- セキュリティの要件 : 認証、シングルサインオン
- サービス機能の要件 : なし
- スケーラビリティの要件 : なし

これらの要件は、Java Enterprise System を評価するために必要です。運用配備のための配備のシナリオには、通常、次の要件すべてに対する仕様が含まれています。

配備アーキテクチャの評価配備例

配備アーキテクチャは、システム要件に対応する方法で論理アーキテクチャを展開するための手順です。図 1-2 は評価配備例に対する配備アーキテクチャを示します。この配備アーキテクチャは、図 1-1 に示される論理アーキテクチャと、23 ページの「システム要件」で指定されるシステム要件を結合します。

図 1-2 配備アーキテクチャの評価配備例

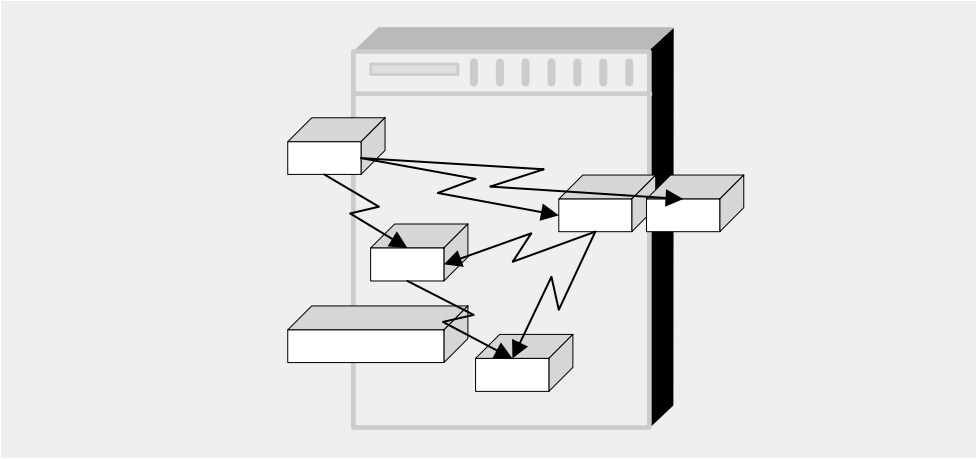


図 1-2 は、図 1-1 と同様の一連のコンポーネントを示しています。コンポーネントは、すべて 1 台のコンピュータにインストールされています。コンポーネント間の関係は変わりません。

評価配備のシナリオに使用される配備アーキテクチャは、運用アーキテクチャではありません。この配備アーキテクチャでは、セキュリティに関する考慮事項、スケーラビリティ、および高可用性といった、運用配備の設計および設定で直面する多くの考慮点が解決されません。

評価シナリオ手順の概要

この配備例では、20 ページの「評価の使用例」に一覧表示されている使用事例をサポートする Java Enterprise System 環境を設定する方法について説明します。このマニュアルで説明する主な手順は次のとおりです。

1. コンポーネントを、1 台のコンピュータにインストールすることにより、配備アーキテクチャを実装します。この手順では、Java Enterprise System インストーラを使用します。このインストーラはコンポーネントの多くを設定します。この手順は、第 2 章「Java Enterprise System 評価配備のインストール」で説明しています。
2. インストーラが設定しない Java Enterprise System コンポーネントを設定します。構成の手順には、インストーラにより設定されるコンポーネントのインスタンスを、起動および確認する手順が含まれています。この手順は、第 3 章「Java Enterprise System の設定」で説明しています。
3. 汎用のユーザープロビジョニングツールとして、Identity Server を設定します。この手順は、第 4 章「Java Enterprise System ユーザーのプロビジョニング」で説明しています。
4. Java Enterprise System のプロビジョニングを行い、このユーザーが、Java Enterprise System メッセージングサービスおよびカレンダサービスにアクセスできるようにします。この手順は、第 4 章「Java Enterprise System ユーザーのプロビジョニング」で説明しています。
5. Java Enterprise System のエンドユーザーとしてログインし、ポータルデスクトップサービス、メッセージングサービス、およびカレンダーサービスに個別にアクセスします。この手順は、第 5 章「Java Enterprise System サービスへのエンドユーザーアクセスの確認」で説明しています。
6. Identity Server シングルサインオン (SSO) を設定します。この手順は、第 6 章「シングルサインオン (SSO) の設定」で説明しています。
7. Java Enterprise System のエンドユーザーとしてログインし、SSO を確認します。この手順は、第 6 章「シングルサインオン (SSO) の設定」で説明しています。
8. プロキシ認証を設定します。プロキシ認証はポータルデスクトップからメッセージングサービスおよびカレンダーサービスへの、直接アクセスを許可します。この手順は、第 7 章「プロキシ認証の設定」で説明しています。
9. Java Enterprise System のエンドユーザーとしてポータルデスクトップへログインし、ポータルデスクトップから、直接メッセージングサービスおよびカレンダーサービスを使用できるかどうか確認します。この手順は、第 7 章「プロキシ認証の設定」で説明しています。

評価配備例の目標

この配備例の手順に従うことにより、Java Enterprise System が、組織をどのようにサポートするかを理解できます。Java Enterprise System コンポーネントを設定する方法を学ぶことにより、組織のユーザーにサービスを提供することができます。より具体的には、次のタスクについて理解することができます。

- Java Enterprise System コンポーネントのインストール
- Java Enterprise System 管理ツールの使用
- システムとして連携して機能する Java Enterprise System コンポーネントの設定
- Java Enterprise System の配備によりサポートされる Directory Server LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) 組織の指定
- 正しい順序での Java Enterprise System コンポーネントの起動および停止
- Java Enterprise System ユーザーのプロビジョニング
- システム全体のシングルサインオン (SSO) の設定
- ポータルデスクトップ、Messenger Express と呼ばれる Messaging Server の Web インタフェース、Calendar Express と呼ばれる Calendar Server の Web インタフェースなどのエンドユーザーサービスへのアクセス

Java Enterprise System のインストールと設定の詳細については、『Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

第 2 章

Java Enterprise System 評価配備のインストール

この章では、評価目的で、1 台のマシンに Java Enterprise System コンポーネントをインストールする方法を示します。カスタムモードで Java Enterprise System インストーラを実行すると、インストーラはシステムコンポーネントの多くに関する情報を求めるプロンプトを表示します。インストーラはコンポーネントを設定するためにユーザーが入力した値を使用します。

他のコンポーネントは、コンポーネント設定ツールを使用して、インストールの後に設定されます。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 28 ページの「インストール要件の確認」
- 28 ページの「コンポーネントのインストール」
- 48 ページの「コンポーネントのアンインストール」

インストーラで指定する情報の詳細については、『Java Enterprise System インストールガイド』(http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja) の第 4 章「インストールおよび設定に関する情報の収集」、および付録 A 「情報収集用ワークシート」を参照してください。

注 この章全体で、example.com ドメイン内で、ホスト名 allinone を含むコマンドおよび画面イメージが表示されます。Java Enterprise System インストーラを実行する場合に、インストーラはインストール先のコンピュータのホスト名をデフォルトのホスト名として、およびコンピュータのネットワークドメインを、デフォルトの管理サーバーのドメイン名として使用することに注意する必要があります。

この配備例の手順に従う場合には、サンプルのコマンドと画面イメージに表示されるホスト名とドメイン名を、自分の環境のホスト名とドメイン名に置き換える必要があります。

インストール要件の確認

Java Enterprise System をインストールする前に、インストール先のコンピュータの準備が整っていることを確認します。コンピュータは次の要件を満たしている必要があります。

- この配備例では、インストール先のコンピュータに Solaris™ 9 Operating System および必要なパッチが新規インストールされていることを前提としています。パッチは http://sunsolve.sun.com で入手できます。Solaris 8 Operating System にインストールする場合には、一部のパッチ名は、この例に示されるパッチの名前とは多少異なります。
- Java Enterprise System をインストールする前に、ハードウェアおよびオペレーティングシステムの最小要件およびパッチの要件を満たしていることを確認します。サポートするプラットフォーム、ソフトウェア要件、およびハードウェア要件に関する最新の情報は、次の Web サイトにある『Java Enterprise System リリースノート』(http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja) を参照してください。
- Java Enterprise System コンポーネントのすべてを 1 台のコンピュータにインストールするには、2G バイトの空きディスク容量、および 1G バイトのシステムメモリが必要です。1G バイトよりメモリが少ない場合、コンポーネントのインストールは可能ですが、すべてのプロセスを起動すると過度のスワッピングが発生する可能性があります。特に、76 ページの「Calendar Server インスタンスの設定」で説明している Calendar Server の設定を実行できない場合があります。
- インストーラは、root で実行する必要があります。Java Enterprise System のインストール先コンピュータに対して、root アクセス権を持っていることを確認します。

コンポーネントのインストール

Java Enterprise System インストーラを実行することにより、Java Enterprise System コンポーネントをインストールします。

➤ **インストーラを起動するには**

1. 次のいずれかの方法で、Java Enterprise System ソフトウェアを入手します。
   - ソフトウェアをダウンロードし、アンパックする
   - CD または DVD を適切なドライブに挿入する
2. Java Enterprise System をインストールするマシンに root としてログインします。
3. 適切なディレクトリに移動します。
   - ソフトウェアをダウンロードした場合、ダウンロードしたディレクトリに移動します。cd *installer-directory/platform-directory*

- CD を使用している場合は、`cd /cdrom/`*platform-directory* と入力します。
- DVD を使用している場合、プラットフォームのディレクトリに移動します。

プラットフォームのディレクトリは、`Solaris_sparc` または `Solaris_X86` のいずれかです。

4. Java Enterprise System インストーラをグラフィカルモードで起動します。

   ```
   ./installer
   ```

   Java Enterprise System の「ようこそ」ページが表示されます。

5. 「ようこそ」ページで、「次へ」をクリックして続行します。

   「ソフトウェアライセンス契約」ページが表示されます。

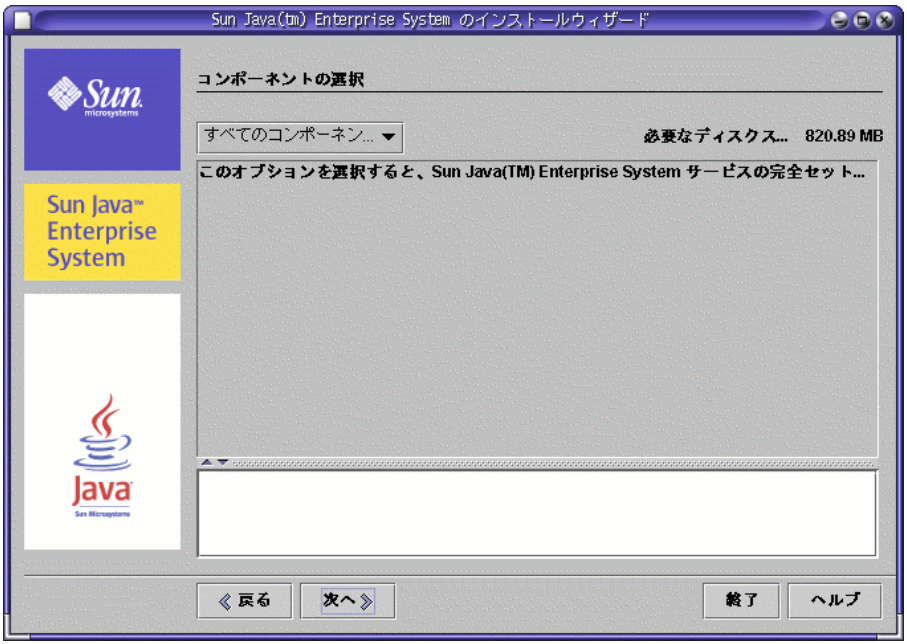
6. 「ソフトウェアライセンス契約」ページで、「はい」をクリックし、ライセンスの条項に同意し、続行します。

   「言語サポート」ページが表示されます。

7. 「言語サポート」ページで、Java Enterprise System でサポートされる言語を選択します。英語は必ずサポートされます。他の言語のサポートが必要な場合、その言語を選択します。「次へ」をクリックします。

   「コンポーネントの選択」ページが表示されます。30 ページの「インストールするコンポーネントを選択するには」に進みます。

図 2-1　　「コンポーネントの選択」ページ



➤ インストールするコンポーネントを選択するには

1. 「コンポーネントの選択」ページで、インストールするコンポーネントを選択します。この評価配備例の場合、すべての Java Enterprise System コンポーネントをインストールします。

   - マシン上にコンポーネントがインストールされていない場合は、「すべてのコンポーネント」オプションを利用できます。このオプションを選択します。「次へ」をクリックして、32 ページの手順 2 に進みます。

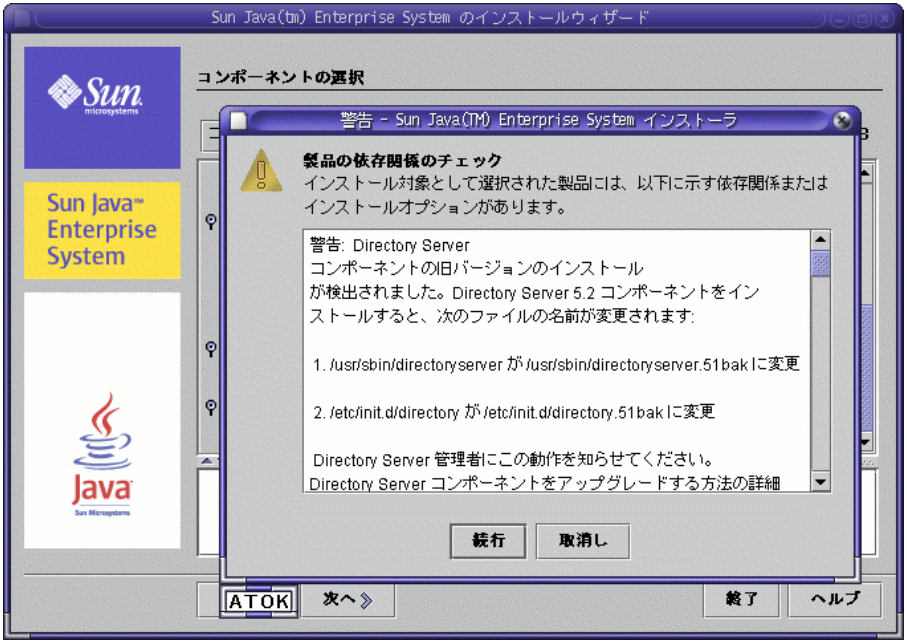
   - マシン上にいずれかのコンポーネントがインストールされている場合は、「すべてのコンポーネント」オプションは選択できません。代わりに、「コンポーネントの選択」ページに表示される一覧から、個別にコンポーネントを選択する必要があります。コンポーネントおよびそのサブコンポーネントが、ツリー構造で配置されていることに注目してください。マシン上にすでにインストールされているコンポーネントは、淡色で表示されます。

     コンポーネントを選択するには、ツリーノードを展開してサブコンポーネントを表示する必要があります。すべてのコンポーネントおよびサブコンポーネントを選択したことを確認します。「次へ」をクリックして、32 ページの手順 2 に進みます。

注 評価配備例で、リストを使用して、次の Java Enterprise System コンポーネントおよびそのサブコンポーネントを選択します。

- Sun ONE Messaging Server 6.0
- Sun ONE Calendar Server 6.0
- Sun ONE Instant Messaging 6.1
- Sun ONE Portal Server 6.2
- Sun ONE Portal Server, Secure Remote Access 6.2
- Sun ONE Application Server 7.0
- Sun ONE Web Server
- Sun ONE Identity Server 6.1
- Sun ONE Directory Server 5.2
- Sun ONE Directory Proxy Server 5.2
- Sun ONE Message Queue 3.0.1 Service Pack 2
- Sun ONE Administration Server 5.2
- Sun Cluster 3.1

図 2-2　　コンポーネント製品の依存性の警告メッセージ



2. インストーラが選択内容を検証します。次のような結果が表示されます。

   - 選択したコンポーネント間、およびシステム上で検出されたコンポーネントとの間に互換性がある場合、インストーラは「アップグレードの必要がある共有コンポーネント」ページを表示します。33 ページの手順 3 に進みます。

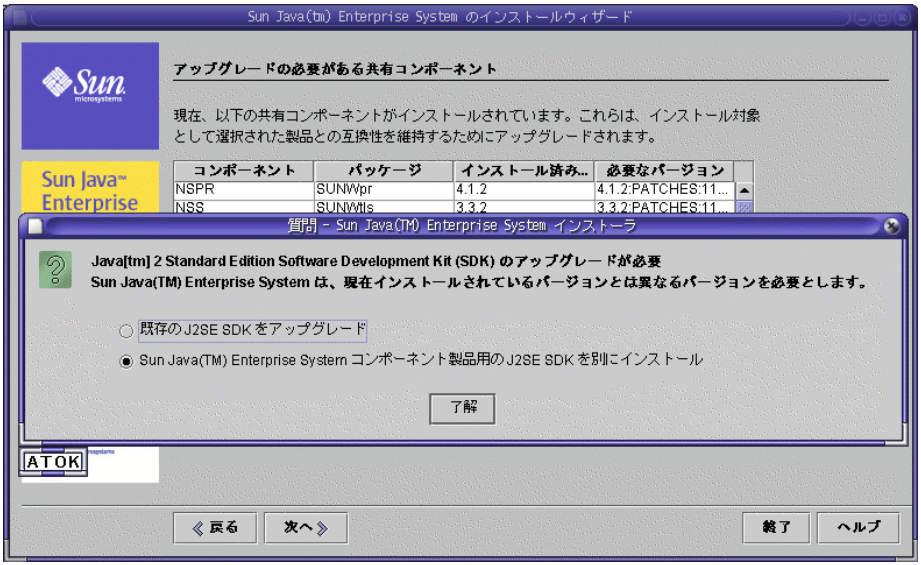
   - 選択したコンポーネントが、システム上で検出したコンポーネントとの互換性がない場合、インストーラはこの問題が記述されたメッセージを表示します。以降の手順に進む前に、メッセージに記述されている問題を解決する必要があります。場合によっては、インストーラにより検出された互換性がないコンポーネントのアップグレードまたは削除が必要となります。

     図 2-2 は、よくある状況を示しています。インストーラは、Solaris OS をデフォルトでインストールした場合に含まれる、Directory Server のインストールされたバージョンを検出しました。この場合、インストーラは既存の Directory Server をバックアップし、新しい、互換性のある Directory Server をインストールするプロンプトが表示されます。この種類のメッセージが表示された場合、「続行」をクリックし、33 ページの手順 3 に進みます。

- 選択したコンポーネントが、選択されていないコンポーネントに依存し、この関係がリモートコピーによって解決される場合、次のページに進むことはできますが、警告メッセージが表示されます。この配備例の場合、いずれのコンポーネントもリモートコピーを使用できません。必要なコンポーネントがすべて同じマシンにインストールされたことを確認して、33 ページの手順 3 に進みます。

「アップグレードの必要がある共有コンポーネント」ページが開き、インストールされた共有コンポーネントのリストが表示されます。

図 2-3　「質問」ダイアログ



ヒント　次のファイルには、これらの確認中に判明した依存性についての情報が含まれています。

`/var/sadm/install/log/installdependencies.txt`

3. 互換性のないバージョンの J2SE がインストールされている場合、「アップグレードの必要がある共有コンポーネント」ページの上に「質問」メッセージが表示され、継続する方法を要求するプロンプトが表示されます。この状況が図 2-3 に示されています。評価配備例の場合、デフォルト値の「Sun Java(TM) Enterprise system コンポーネント製品用の J2SE SDK を別にインストール」を受け入れて、「了解」をクリックします。

4. 「アップグレードの必要がある共有コンポーネント」ページで、アップグレードする必要がある共有コンポーネントのリストを確認します。リストは、Solaris の 1 つのインストールから、さまざまなものがあります。「次へ」をクリックして続行します。

   「インストールディレクトリ」ページが表示されます。

注 共有コンポーネントは、Java Enterprise System コンポーネントに対して、ローカルサービスとテクノロジサポートを提供します。Java Enterprise System をインストールする場合、インストーラは、選択する Java Enterprise System コンポーネントにとって必要な共有コンポーネントを自動的にインストールします。

---

5. 「インストールディレクトリ」ページで、デフォルトのディレクトリを受け入れます。「次へ」をクリックして続行します。

   「システム要件の確認中」ページが表示されます。

ヒント コンポーネントのデフォルトインストールディレクトリの完全なリストについては、『Java Enterprise System インストールガイド』の第 4 章「インストールおよび設定に関する情報の収集」を参照してください。

---

6. 「システム要件の確認中」ページは、次のシステム要件についてマシンを検証します。

   - ディスク容量
   - メモリ
   - オペレーティングシステムのパッチ

   メモリ不足の警告が表示された場合、無視してもかまいません。評価配備は、運用配備よりも大幅に少ないメモリで十分機能します。

   システムチェックが完了したら、「次へ」をクリックして続行します。

   「設定タイプ」ページが表示されます。

➤ 設定の種類を指定するには

1. 「設定タイプ」ページで、「カスタム設定」を選択し、「次へ」をクリックして続行します。

   「カスタム設定」を使用すると、ほとんどの Java Enterprise System コンポーネントの設定値を指定できます。インストーラはインストーラのページで指定した値に基づいて、コンポーネントを設定します。

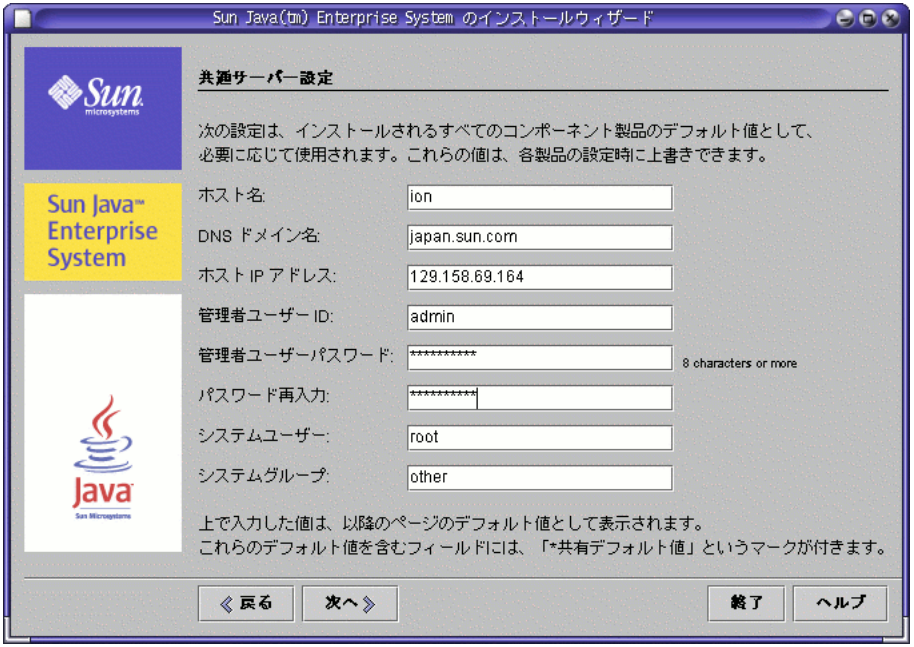
「カスタム設定」ページが表示されます。

2. 「カスタム設定」ページは、Java Enterprise System インストーラが Instant Messaging、Messaging Server、Calendar Server、または Sun Cluster ソフトウェアを設定しない、というメッセージを表示します。第 3 章 では、Calendar Server および Messaging Server を設定する方法について説明します。

   「次へ」をクリックします。「共有サーバー設定」ページが表示されます。

注 「共有サーバー設定」ページに始まり、Java Enterprise System インストーラは Java Enterprise System コンポーネントを設定するために使用する情報を要求する一連のページを表示します。

図 2-4 「共有サーバー設定」ページ



➤ 共通サーバー設定を入力するには

1. 「共有サーバー設定」ページで次のことを行います。

   a. デフォルト値を確認します。デフォルト値は、現在のセッションに基づいています。

      - 「ホスト名」フィールドには、現在ログインしているマシン名が設定される
      - 「DNS ドメイン名」フィールドには、マシンが所属するドメインが設定される

      図 2-4 は、allinone.example.com という名前のマシンのデフォルト値を示します。「ホスト名」フィールドには、マシン名、allinone、が設定され、「DNS ドメイン名」フィールドには、example.com と設定されます。ユーザーのインストーラには、インストールするマシンに基づく、同様の値が表示されます。

   b. 「管理者ユーザーパスワード」フィールド、および「パスワード再入力」フィールドに、パスワードを入力します。この配備例では、値として `password` を使用しています。

   c. 「次へ」をクリックします。「Web サーバー : 管理 (1 / 2)」ページが表示されます。

注 「共有サーバー設定」ページは、続くページ上でデフォルト値として表示される値を設定します。たとえば、共通サーバー設定で、「管理者ユーザー ID」に設定した値は、続く設定ページで、デフォルトの「管理者ユーザー ID」として表示されます。

この配備例はデフォルト値を、「共有サーバー設定」ページで使用します。

➤ Web Server の情報を入力するには

1. 「Web サーバー : 管理 (1 / 2)」ページで、デフォルト値を受け入れて、「次へ」をクリックします。

   「Web サーバー : 管理 (2 / 2)」ページが表示されます。

2. 「Web サーバー : デフォルトの Web サーバーインスタンス」ページで、デフォルト値を受け入れます。「システムが再起動すると自動的に Web サーバーを起動します」を選択しないでください。「次へ」をクリックします。

   「アプリケーションサーバー : 管理」ページが表示されます。

➤ Application Server の情報を入力するには

- 「アプリケーションサーバー : 管理」ページで、デフォルト値を受け入れて、「次へ」をクリックします。

  「ディレクトリサーバー : 管理」ページが表示されます。

➤ Directory Server の情報を入力するには

1. 「ディレクトリサーバー : 管理 (1 / 5)」ページで、デフォルト値を受け入れて、「次へ」をクリックします。

   「ディレクトリサーバー : 管理 (2 / 5)」ページが表示されます。

2. 「ディレクトリサーバー : 管理 (2 / 5)」ページで、デフォルト値を受け入れて、「次へ」をクリックします。

   「ディレクトリサーバー : Configuration Directory Server (3 / 5)」ページが表示されます。

3. 「ディレクトリサーバー : Configuration Directory Server (3 / 5)」ページで、デフォルト値の「このサーバーに設定データを保存します」を受け入れて、「次へ」をクリックします。

   「ディレクトリサーバー : データの保存場所 (4 / 5)」ページが表示されます。

4. 「ディレクトリサーバー : データの保存場所 (4 / 5)」ページで、デフォルト値の「ディレクトリサーバーの次のインスタンスにユーザー / グループデータを保存します」を受け入れて、「次へ」をクリックします。

   「ディレクトリサーバー : データの読み込み (5 / 5)」ページが表示されます。

5. 「ディレクトリサーバー : データの読み込み (5 / 5)」ページで、デフォルト値の「データの読み込み」チェックボックスの下の「サンプルデータ」ラジオボタンが選択されているのを受け入れて、「次へ」をクリックします。

   「管理サーバー : 管理」ページが表示されます。

➤ 管理サーバーの情報を入力するには

1. 「管理サーバー : 管理 (1 / 2)」ページで、デフォルト値を受け入れて、「次へ」をクリックします。

   「管理サーバー : 構成ディレクトリの設定 (2 / 2)」ページが表示されます。

2. 「管理サーバー : 構成ディレクトリの設定 (2 / 2)」ページで、デフォルト値を受け入れて、「次へ」をクリックします。

   「ディレクトリプロキシサーバー : ポート選択」ページが表示されます。

➤ Directory Proxy Server の情報を入力するには

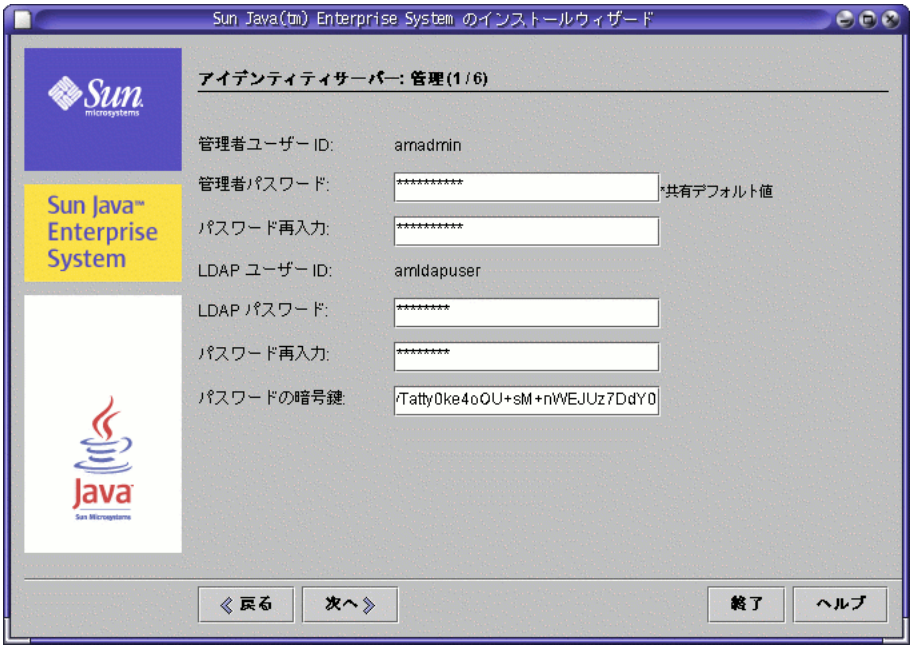
1. 「ディレクトリプロキシサーバー : ポート選択」ページで、デフォルト値を受け入れて、「次へ」をクリックします。

   「ディレクトリプロキシサーバー : Configuration Directory Server 管理者」ページが表示されます。

2. 「ディレクトリプロキシサーバー : Configuration Directory Server 管理者」ページで、デフォルト値を受け入れて、「次へ」をクリックします。

   「アイデンティティサーバー : 管理 (1 / 6)」ページが表示されます。

図 2-5　　「アイデンティティサーバー : 管理者」ページ



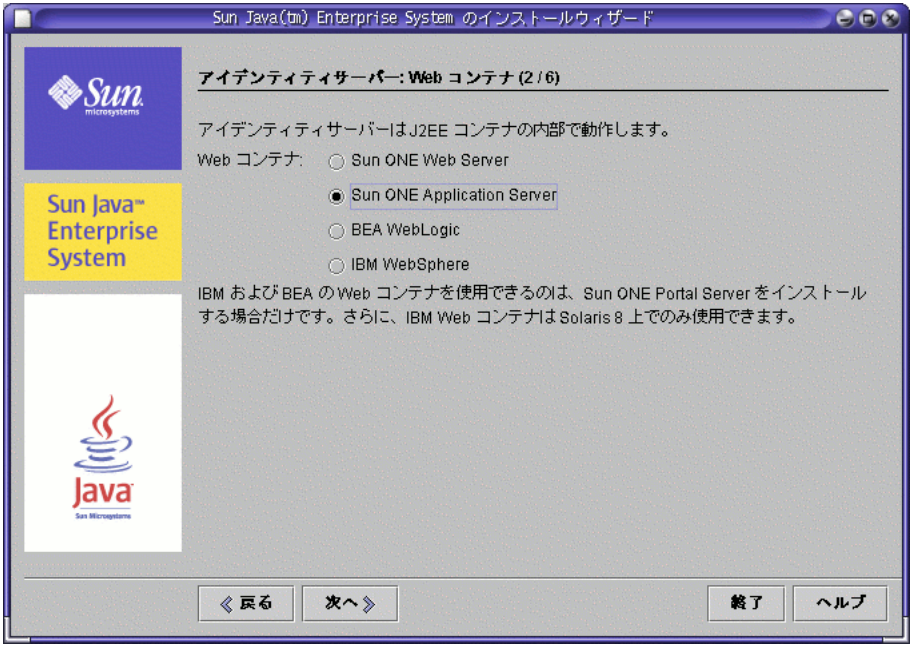
➤ Identity Server の情報を入力するには

1. 「アイデンティティサーバー : 管理 (1 / 6)」ページで、LDAP パスワードを入力します。「管理者ユーザーパスワード」フィールドに、「共有サーバー設定」ページで入力したデフォルトのパスワードが設定されていることに注意してください (36 ページの「共通サーバー設定を入力するには」を参照)。「次へ」をクリックします。

注	LDAP パスワードを、管理者パスワードと同一にすることはできません。この配備例では、値として `ldappassword` を使用しています。

「アイデンティティサーバー : Web コンテナ (2 / 6)」ページが表示されます。

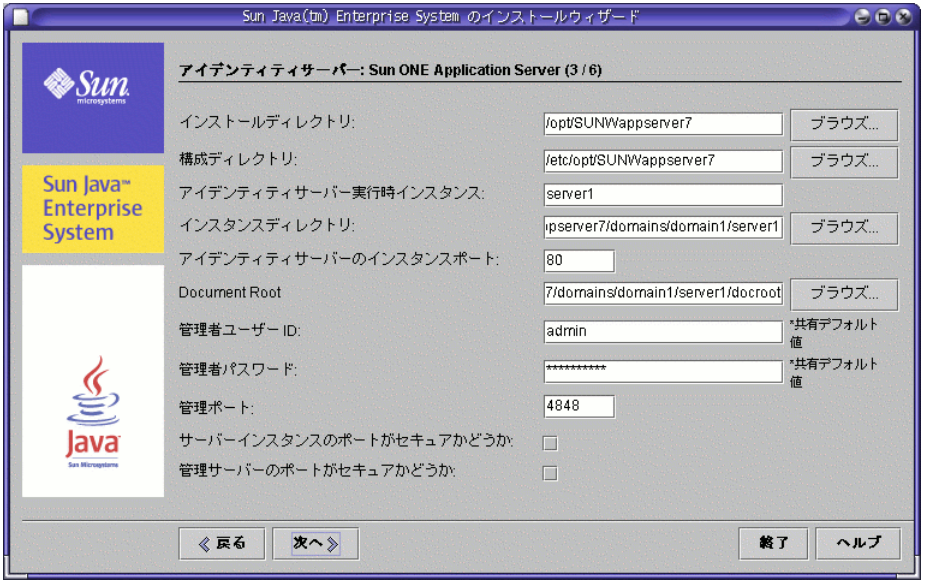
図 2-6 「アイデンティティサーバー : Web コンテナ (2 / 6)」ページ



2. 「アイデンティティサーバー : Web コンテナ (2 / 6)」ページで、「Sun ONE Application Server」を選択し、「次へ」をクリックします。

   「アイデンティティサーバー : Sun ONE Application Server (3 / 6)」ページが表示されます。

図 2-7　「アイデンティティサーバー : Sun ONE Application Server (3 / 6)」ページ



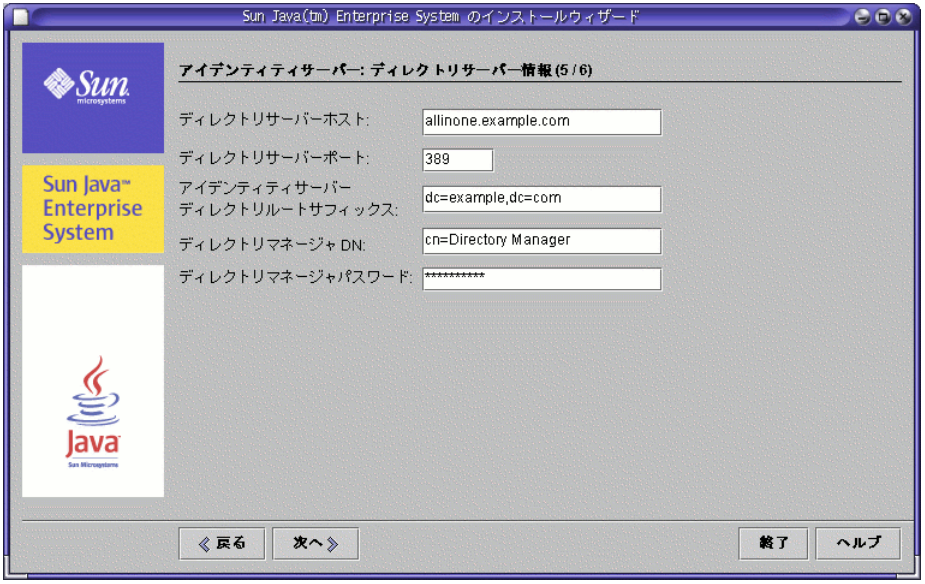
3. 「アイデンティティサーバー : Sun ONE Application Server (3 / 6)」ページで、デフォルト値を受け入れ、「次へ」をクリックします。

   「アイデンティティサーバー: Sun ONE Identity Server サービスを実行するために Web コンテナ」ページが表示されます。

4. 「アイデンティティサーバー: Sun ONE Identity Server サービスを実行するために Web コンテナ」ページで、デフォルト値を受け入れて、「次へ」をクリックします。

   「アイデンティティサーバー : ディレクトリサーバー情報 (5 / 6)」ページが表示されます。

図 2-8　「アイデンティティサーバー : ディレクトリサーバー情報」ページ

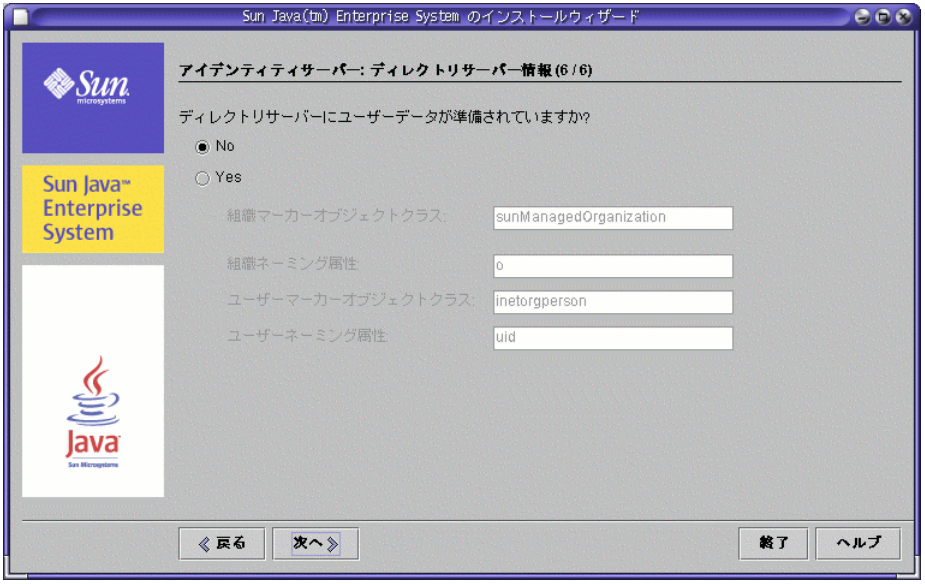


5. 「アイデンティティサーバー : ディレクトリサーバー情報 (5 / 6)」ページで、Directory Manager のパスワードを入力します。この配備例では、値として `password` を使用しています。「次へ」をクリックします。

   「アイデンティティサーバー : ディレクトリサーバー情報 (6 / 6)」ページが表示されます。

注　入力したパスワードは、「ディレクトリサーバー : 管理」ページで、Directory Server に対して設定した、Directory Manager パスワードと一致している必要があります。37 ページの「Directory Server の情報を入力するには」を参照してください。

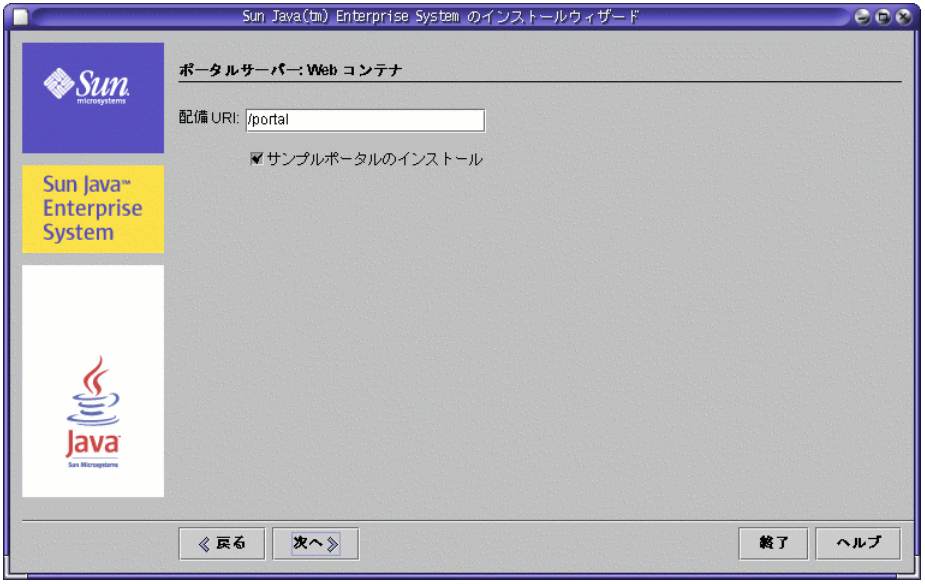
図 2-9　「アイデンティティサーバー : ディレクトリサーバー情報」ページ



6. 「アイデンティティサーバー : ディレクトリサーバー情報 (6 / 6)」ページで、デフォルト値の「No」を受け入れて、「次へ」をクリックします。

   「ポータルサーバー : Web コンテナ」ページが表示されます。

図 2-10　「ポータルサーバー : Web コンテナ」ページ



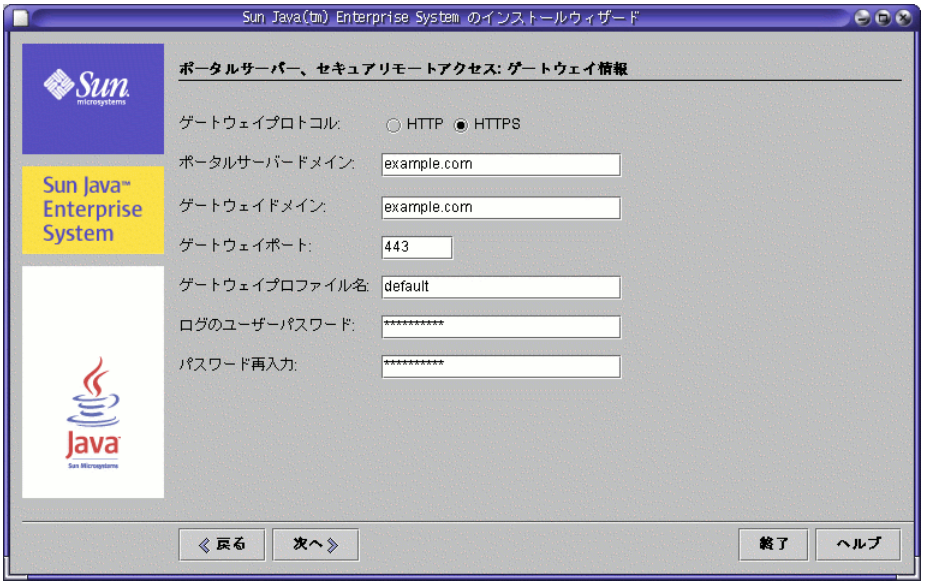
➤ Portal Server の情報を入力するには

- 「ポータルサーバー : Web コンテナ」ページで、「配備 URI」のデフォルト値の「/portal」を受け入れます。「サンプルポータルのインストール」チェックボックスのデフォルトの状態 (選択済み) を受け入れ、「次へ」をクリックします。

ヒント　「サンプルポータルのインストール」を選択していることを確認します。サンプルポータルを使用して、メッセージングサービスおよびカレンダーサービスを検証します。

「ポータルサーバー、セキュアリモートアクセス : ゲートウェイ情報」ページが表示されます。

図 2-11　「ポータルサーバー、セキュアリモートアクセス : ゲートウェイ情報」ページ



➤ Portal Server, Secure Remote Access の情報を入力するには

1. 「ポータルサーバー、セキュアリモートアクセス : ゲートウェイ情報」ページで、ログユーザーのパスワードを入力します。評価配備例の場合は、値として `password` を使用しています。「次へ」をクリックします。

   「ポータルサーバー、セキュアリモートアクセス : ゲートウェイ」ページが表示されます。

2. 「ポータルサーバー、セキュアリモートアクセス : ゲートウェイ」ページで、デフォルト値を受け入れて、「次へ」をクリックします。

   「ポータルサーバー、セキュアリモートアクセス : Netlet プロキシ」ページが表示されます。

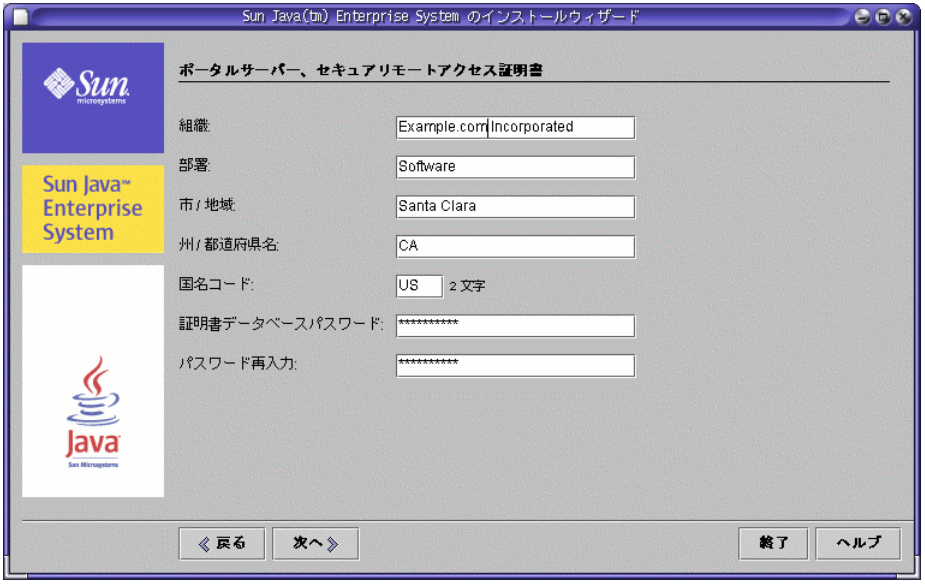
3. 「ポータルサーバー、セキュアリモートアクセス : Netlet プロキシ」ページで、デフォルト値を受け入れて、「次へ」をクリックします。

   「ポータルサーバー、セキュアリモートアクセス : Rewriter プロキシ」ページが表示されます。

4. 「ポータルサーバー、セキュアリモートアクセス : Rewriter プロキシ」ページで、デフォルト値を受け入れて、「次へ」をクリックします。

   「ポータルサーバー、セキュアリモートアクセス証明書」ページが表示されます。

図 2-12　「ポータルサーバー、セキュアリモートアクセス証明書」ページ



5. 「ポータルサーバー、セキュアリモートアクセス証明書」ページで、証明書データベースパスワードを入力します。評価配備例の場合は、値として `password` を使用しています。「次へ」をクリックします。

   「インストールの準備が完了しています」ページが表示されます。

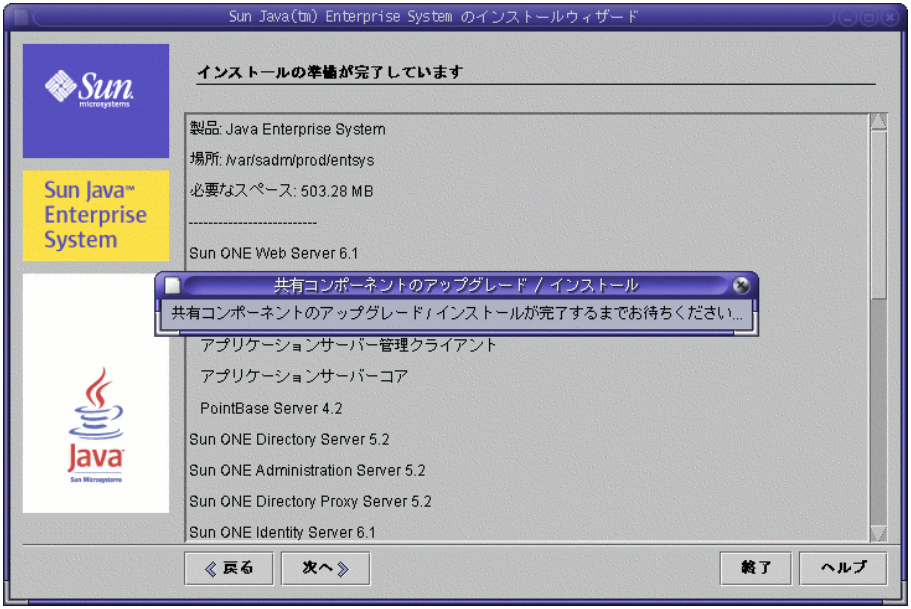
図 2-13　「インストールの準備が完了しています」ページ

➤ **インストールを完了するには**

1. 「インストールの準備が完了しています」ページで、情報を確認します。「次へ」をクリックします。

   共有コンポーネントがアップグレードされます。

図 2-14　「共有コンポーネントのアップグレード」メッセージ

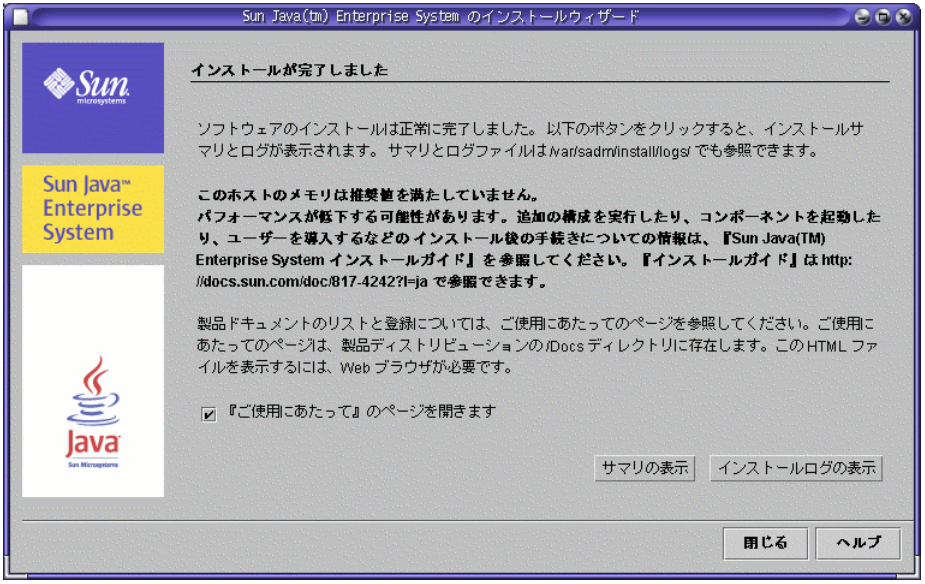


ヒント　インストールされた内容を見るには、`/var/sadm/install/logs` ディレクトリにあるログファイルを確認します。

2. インストーラが、共有コンポーネントのアップグレードを終了すると、「製品登録」ページが表示されます。
3. 「製品登録」ページで、「インストール中に登録ウィンドウを開きます」の選択を解除し、「次へ」をクリックします。

   「インストール中」ページが表示されます。
4. インストールが終了すると、「インストールが完了しました」ページが表示されます。

図 2-15　「インストールが完了しました」ページ



5. インストールサマリおよびログを参照して、「閉じる」をクリックします。

   「ご使用にあたって」ページが表示されます。

6. このページを確認し、Web ブラウザを閉じます。

コンポーネントのアンインストール

Java Enterprise System には、インストールしたコンポーネント製品を削除する、アンインストールプログラムが備えられています。アンインストーラは、アンインストーラが実行されているシステムでコンポーネントの依存性をチェックし、他の製品への依存が検出された場合は警告メッセージを出力します。

`/var/sadm/prod/entsys` にアンインストーラがインストールされています。

インストーラの使用の詳細については、『Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。`http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja` からオンラインでアクセスできます。

第 3 章

Java Enterprise System の設定

この章では、この Java Enterprise System の評価で使用する、コンポーネントの設定および起動方法について説明します。Java Enterprise System 全体が機能するまで、コンポーネントを特定の順序で起動します。最初に、Application Server および Directory Server を起動します。これらのコンポーネントは、他のコンポーネントにより必要とされるサービスを提供するためです。

Java Enterprise System インストールプログラムにより、Directory Server、Application Server、Identity Server、および Portal Server の実行可能なインスタンスが作成されます。これらのインスタンスを起動し、正常に稼動していることを確認します。

インストーラは、Messaging Server および Calendar Server の実行可能なインスタンスを作成しません。この章では、これらの製品に対して、インスタンスを作成し、インスタンスを起動するために、設定ウィザードを使用する方法について説明します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 50 ページの「設定処理について」
- 50 ページの「Directory Server のデフォルトインスタンスの確認」
- 56 ページの「Application Server のデフォルトインスタンスの確認」
- 59 ページの「Identity Server のデフォルトインスタンスの確認」
- 61 ページの「Portal Server のデフォルトインスタンスの確認」
- 62 ページの「Messaging Server インスタンスの設定」
- 76 ページの「Calendar Server インスタンスの設定」

設定処理について

Java Enterprise System インストーラの実行により、次のことが行われました。

- インストーラによる、すべてのアプリケーションファイルのコンピュータへのコピー、およびオペレーティングシステムへのコンポーネントの登録
- インストーラによる、Directory Server、Application Server、Identity Server、および Portal Server のデフォルトインスタンスの作成

この章では、インストーラが作成したデフォルトインスタンスを起動し使用する方法について説明します。また、Messaging Server および Calendar Server のインスタンスを作成し起動する方法についても説明します。

注 運用システムでは、通常、コンポーネントを一度だけインストールします。企業のスケーラビリティを増加させる必要がある場合、システム管理タスクとして追加のインスタンスを作成します。

Directory Server のデフォルトインスタンスの確認

Directory Server および Application Server により提供されるサービスは、他の Java Enterprise System コンポーネントの多くをサポートします。評価は、ユーザーがデフォルトの Directory Server および Application Server インスタンスを起動し管理できるかどうかを確認することから始まります。

ここでは、Directory Server のデフォルトインスタンスを起動し、次に管理サーバーを使用して、デフォルトのインスタンスが正常に設定されているかを確認します。

ここでは次について説明します。

- Directory Server を起動および停止する方法
- Directory Server を管理するために、管理サーバーを使用する方法

Directory Server のインストールの確認

Directory Server のデフォルトインスタンスを起動する前に、Directory Server のインストールを確認します。

➤ **インストールログファイルを確認し、インストールを確認するには**

1. ログファイルのディレクトリに移動します。

   ```
   cd /var/sadm/install/logs
   ```

2. `ls` コマンドを使用してディレクトリの内容をリスト表示します。

   ```
   ls
   ```

   Java Enterprise System コンポーネントのログファイルのリストが表示されます。

3. Directory Server のインストールログを開きます。ファイル名には日付のスタンプが含まれます。`Directory_Server_install.Bmmddxxxx` のようになっています。

   ログファイルに、Sun ONE Directory Server、Sun ONE Directory Console Support、および Sun ONE Basic Libraries がインストールされたことを示すメッセージが表示されています。これで全体的なインストールは正常に完了しました。

管理サーバーの起動

Directory Server のデフォルトインスタンスを起動する前に、管理サーバーを起動します。管理サーバーは、Directory Server のための管理ツールです。

➤ **管理サーバーを起動するには**

1. サーバーのルートディレクトリに移動します。

   ```
   cd /var/opt/mps/serverroot
   ```

2. `start-admin` コマンドを実行します。

   ```
   ./start-admin
   ```

   管理サーバーが起動し、次のメッセージで終了する一連の起動メッセージが表示されます。

   ```
   startup:server started successfully
   ```

Directory Server のデフォルトインスタンスの起動

管理サーバーを起動した後に、Directory Server のデフォルトインスタンスを起動します。

➤ **Directory Server のデフォルトインスタンスを起動するには**

1. インストーラを使用して作成した、Directory Server インスタンスのディレクトリに移動します。インスタンスのディレクトリ名にはホストコンピューター名が含まれます。次の例では、ホスト allinone にインストールされた Directory Server のディレクトリ名を使用します。

   ```
   cd /var/opt/mps/serverroot/slapd-allinone
   ```

   ヒント 使用しているホスト名に必ず置き換えてください。

2. `start-slapd` コマンドを実行します。

   ```
   ./start-slapd
   ```

3. Directory Server が起動し、次のメッセージが表示されます。

   ```
   node not a cluster member
   ```

   このメッセージは Directory Server を起動したコンピュータが、Sun Cluster に含まれていないことを示しています。配備例では Sun Cluster を使用しないため、上記のメッセージが想定されます。

Directory Server インスタンスを確認するための、Sun ONE Server コンソールの使用

Directory Server を起動した後、Sun ONE Server コンソールを起動します。サーバーコンソールは、管理サーバーのインタフェースです。Directory Server および他のサーバーを管理するために使用します。

ここではコンソールを使用して、デフォルトの Directory Server インスタンスおよびその内容を確認します。

➤ **Sun ONE Server コンソールを起動および使用するには**

1. `serverroot` ディレクトリに移動します。

   ```
   cd /var/opt/mps/serverroot
   ```

2. `startconsole` コマンドを実行します。

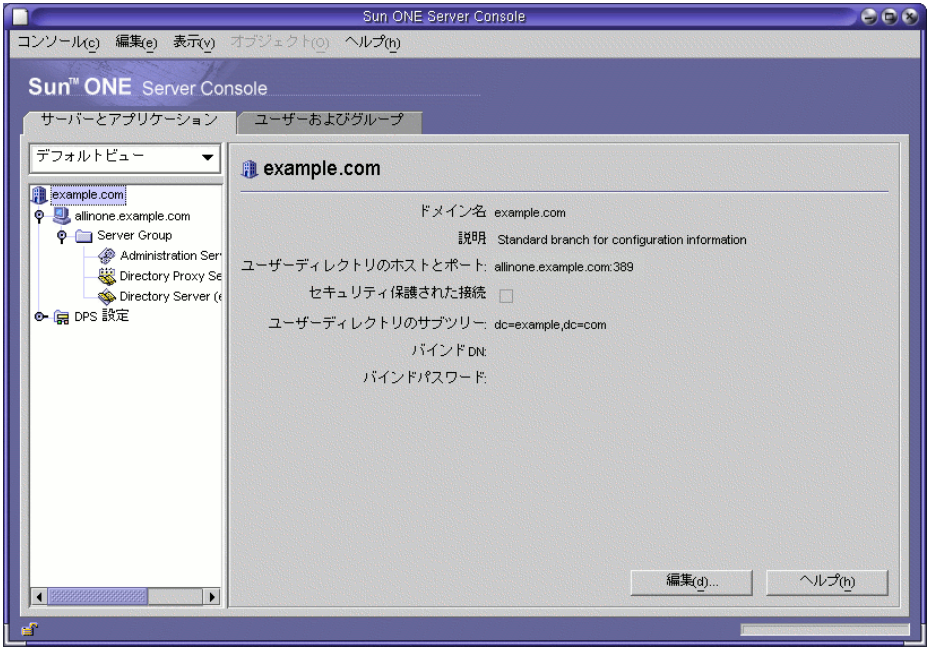
   ```
   ./startconsole
   ```

「Sun ONE サーバーコンソールログイン」ダイアログが表示されます。

3. 管理者のユーザー ID およびパスワードを入力して、「了解」をクリックします。

   「Sun One Server Console」が表示され、管理サーバードメインのサーバーおよびアプリケーションに関する情報が表示されます。図 3-1 は、example.com ドメイン用に表示される情報を示します。ユーザーのドメインに関しても、同様の情報が表示されます。

図 3-1　　Sun ONE Server コンソールの「サーバーとアプリケーション」タブ



4. 「サーバーとアプリケーション」タブのノードと連携します。

   a. 最上位のノードは「Administration Server」ドメインを表します。図 3-1 では、最上位のノードは、example.com と呼ばれるノードです。必要に応じて、最上位のノードをダブルクリックしてツリーを展開します。

   b. 次のレベルには、ドメイン内のマシンを表すノードがあります。図 3-1 では、example.com ドメインに allinone.example.com と呼ばれる 1 台のマシンが含まれています。必要に応じて、Java Enterprise System をインストールしたマシンを表すノードをダブルクリックしてツリーを展開します。

c. 次のレベルは「Server Group」と呼ばれるノードです。このノードはマシンで稼動している、Java Enterprise System サーバーを表します。図 3-1 では、「Server Group」ノードに、allinone.example.com で稼動している Java Enterprise System サーバーが含まれています。

d. 次のレベルは、選択したマシン上で稼動している、個々の Java Enterprise System サーバーのインスタンスを表すノードです。図 3-1 には、「Sun ONE Administration Server」、「Sun ONE Directory Proxy Server」、および「Sun ONE Directory Server (allinone)」のノードがあります。ユーザーの「Administration Server」ドメインに関しても、同様に表示されます。

e. 「Server Group」の「Directory Server (allinone)」アイコンをダブルクリックします。

   「Sun ONE Directory Server」ウィンドウが開きます。

5. 「Sun ONE Directory Server」ウィンドウで次のことを行います。

   a. 「ディレクトリ」タブをクリックします。

      表示が更新され、Directory Server の内容が表示されます。

   b. dc=example,dc=com フォルダのノードを展開します。

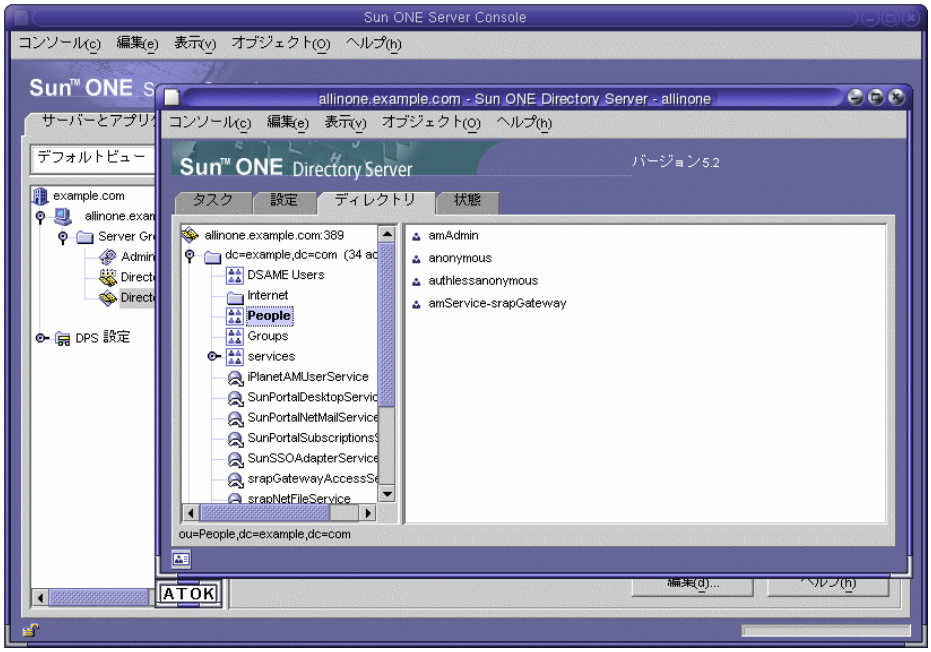
   c. 「People」コンテナをクリックします。

      ウィンドウが更新され、「People」コンテナの内容が右区画に表示されます。図 3-2 は、Sun ONE Directory Server (allinone) インスタンスの画面を示します。使用しているホスト名およびドメイン名に関しても同様の画面が表示されます。

      「People」コンテナに、`amAdmin`、`anonymous`、`authlessanonymous`、および `amService-srapGateway` のエントリが含まれていることを確認します。

ヒント 使用しているホストおよびドメインに必ず置き換えてください。

図 3-2　　Sun ONE Server コンソールの「Sun ONE Directory Server」ウィンドウ



Java Enterprise System インストーラによって Sun ONE Directory Server にサンプルデータのエントリが読み込まれたことが、これらのエントリによって確認されます。インストーラの「ディレクトリサーバー : データの読み込み」ページ上で、ユーザーにより、サンプルデータのエントリが要求されました。これを確認するには、37 ページの「Directory Server の情報を入力するには」を参照してください。

6. コンソールを終了します。

Application Server のデフォルトインスタンスの確認

ここでは、Application Server のデフォルトインスタンスを起動し、次に Application Server の管理コンソールを使用して、デフォルトのインスタンスが正常に設定されているかを確認します。

ここでは次について説明します。

- Application Server 管理サーバーおよび管理コンソールを使用する方法
- Application Server を起動および停止する方法

Application Server 管理サーバーの起動

➤ **Application Server 管理サーバープロセスを開始するには**

1. Application Server 管理サーバーのディレクトリに移動します。このディレクトリ名には、デフォルトアプリケーションサーバーのドメイン、`domain1` が含まれています。このドメイン名を管理サーバーのドメイン名と混同しないようにしてください。次の例は、ディレクトリ名を示します。

   ```
   cd /var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1/admin-server/bin
   ```

2. `startserv` コマンドを実行します。

   ```
   ./startserv
   ```

   Application Server 管理コンソールが起動し、次のメッセージで終了する一連の起動メッセージが表示されます。

   ```
   startup:server started successfully
   ```

Application Server のデフォルトインスタンスの起動

ここでは、Application Server の管理コンソールを開き、Application Server インスタンスを起動する方法を示します。Application Server の管理コンソールを開くには、次のことを実行します。

1. Web ブラウザで、次の URL を開きます。

   ```
   http://allinone.example.com:4848
   ```

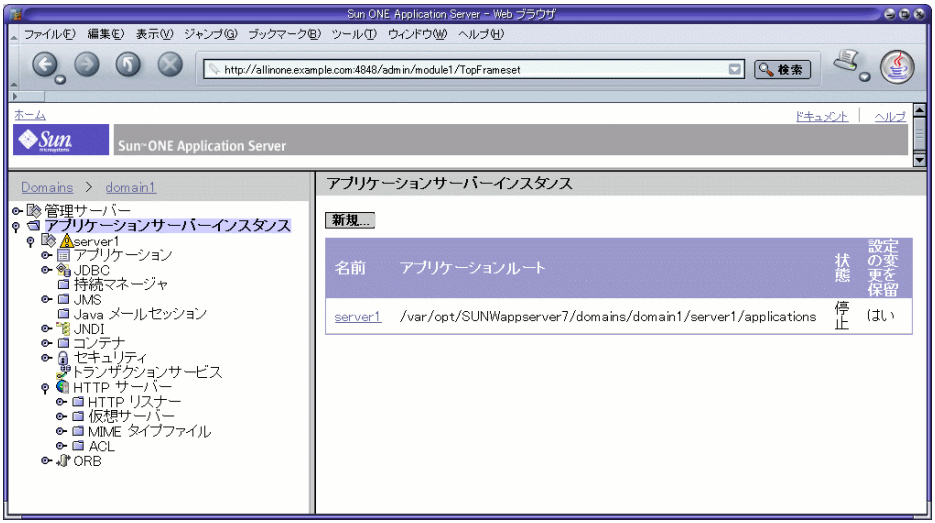
   これにより「プロンプト」ダイアログが表示されます。

ヒント 使用しているホストおよびドメインに必ず置き換えてください。

2. 「プロンプト」ダイアログで、Application Server の管理者のユーザー ID およびパスワードを入力します。「了解」をクリックします。

   管理コンソールのメインウィンドウが開きます。利用可能な Application Server ドメインおよびインスタンスを含む、サーバーに関する情報が表示されます。図 3-3 は、example.com ドメインのコンソールウィンドウを表示します。ここでは、server1 と呼ばれるインスタンスを含む、domain1 と呼ばれる Application Server ドメインを表示します。Domain1 および server1 は、Java Enterprise System インストーラにより作成されました。

図 3-3 Sun ONE Application Server コンソールウィンドウ



3. コンソールウィンドウで、server1 インスタンスを起動します。

   a. 「アプリケーションサーバーインスタンス」区画で、「server1」をクリックします。

      コンソールに、次のメッセージが表示されます。「変更の適用が必要です」

      これは、Java Enterprise System インストーラで指定した設定情報が、server1 インスタンスに適用されていないことを示します。

b. 「変更を適用」ボタンをクリックします。

コンソールに、次のメッセージが表示されます。「変更がインスタンスに適用されました」

c. 「再起動」をクリックします。

server1 インスタンスが起動し、ウィンドウに次のメッセージが表示されます。「インスタンスが起動しました」

Application Server のデフォルトインスタンスが起動されます。

Application Server オンラインマニュアルの使用

ここでは、Application Server オンラインマニュアルの参照先を示します。

1. Web ブラウザで、URL `http://allinone.example.com:81/` を入力します。

   これにより、『Application Server Getting Started』のマニュアルページが開きます。

   ヒント 使用しているホストおよびドメインに必ず置き換えてください。

2. このページのリンクをクリックすることにより、Application Server オンラインマニュアルを表示することができます。

Identity Server のデフォルトインスタンスの確認

Java Enterprise System インストーラにより、Application Server により提供される Web コンテナで実行される、Identity Server のデフォルトインスタンスが設定されました。Application Server のデフォルトインスタンスを起動する場合、Identity Server のデフォルトインスタンスも起動します。この動作は、ユーザーにより、インストーラの「アイデンティティサーバー : Sun ONE Application Server (3/6)」ページで指定されました。確認するには、図 2-7 を参照してください。

ここでは、Identity Server 管理ツールを使用して、Identity Server が稼動していることを確認します。

ここでは次について説明します。

- Identity Server 管理コンソールを使用する方法
- Java Enterprise System インストーラで作成した、Identity Server 組織、ドメイン、ユーザー、グループなどを表示する方法

➤ **Identity Server 管理コンソールにログインし、Identity Server を確認するには**

1. Web ブラウザで、次の URL を開きます。

   `http://allinone.example.com:81/amconsole`

   URI の amconsole を、インストーラの「アイデンティティサーバー : Sun ONE Identity Server サービスを実行するために Web コンテナ」ページで指定したことに注意してください。

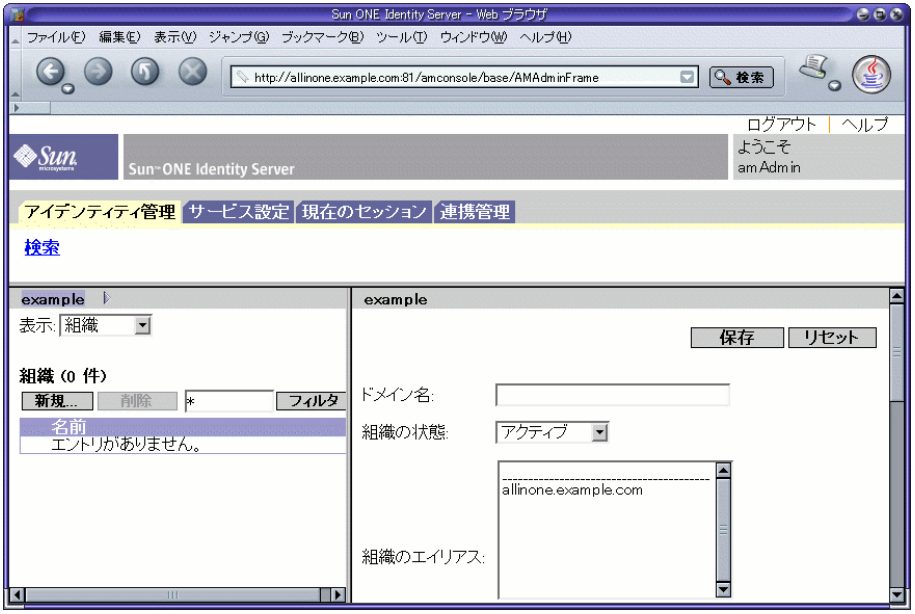
   「ログイン」ダイアログが表示されます。

   ヒント 使用しているホストおよびドメインに必ず置き換えてください。

2. 「ログイン」ダイアログで、管理ユーザーの ID (デフォルト値は `amadmin`) およびパスワードを入力します。ユーザーにより、インストーラの「アイデンティティサーバー : Sun ONE Application Server (3/6)」ページで、この ID およびパスワードを定義しました。確認するには、図 2-7 を参照してください。「了解」をクリックします。

   ブラウザで、Sun ONE Identity Server 管理コンソールが表示されます。図 3-4 は、例となる組織に関する情報を表示する管理コンソールを示します。左区画の「検索」という語の真下に、組織名が表示され、強調表示されていることに注意してください。

図 3-4　　Sun ONE Identity Server 管理コンソール



3. コンソールに表示された情報を確認します。

   a. 「アイデンティティ管理」タブが、デフォルトで選択されていることに注意してください。

   b. 両方の区画のタイトルバーに組織名が表示されます。図 3-4 では、両区画でこの名前の例を表示しています。

   これにより、Identity Server が実行されていて、例となる組織用に設定されていることが確認されます。

4. ページの右上隅にある「ログアウト」をクリックすることにより、Identity Server コンソールからログアウトします。

   「ログアウト」ページが表示されます。

Portal Server のデフォルトインスタンスの確認

Java Enterprise System をインストールしたときに、ユーザーにより、インストーラが Portal Server のデフォルトインスタンスを作成するように選択されました。この選択は、インストーラの「ポータルサーバー : Web コンテナ」ページで行われました。これを確認するには、図 2-10 を参照してください。

Web コンテナで実行する、Portal Server のデフォルトインスタンスは、Application Server により提供されます。Application Server のデフォルトインスタンスを起動する場合、Portal Server のデフォルトインスタンスも起動します。

ここでは、サンプルポータルデスクトップを開いて、Portal Server が稼動していることを確認します。

➤ **サンプルポータルを表示し、Portal Server のデフォルトインスタンスを確認するには**

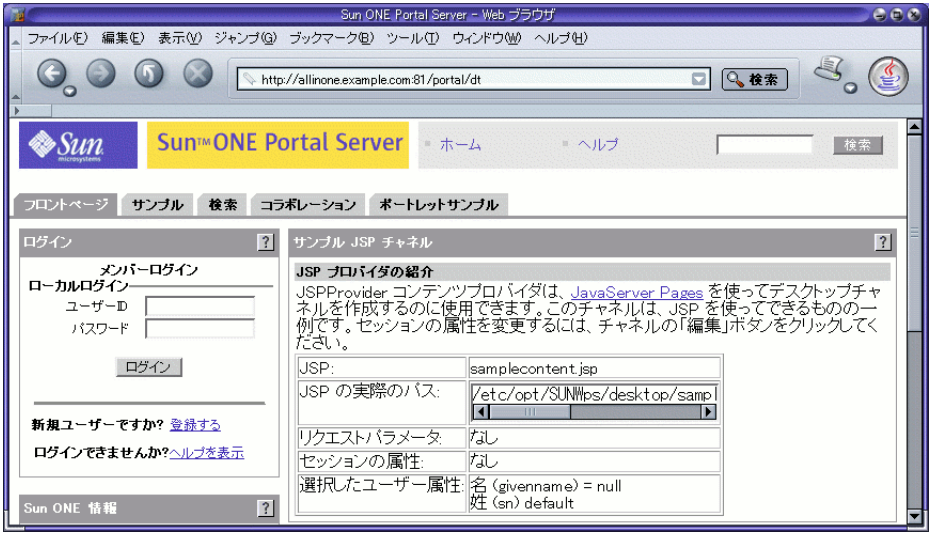
1. Web ブラウザで、次の URL を開きます。

   `http://allinone.example.com:81/portal/`

   Sun ONE Portal Server のサンプルデスクトップが開きます。図 3-5 はサンプルデスクトップを示します。

ヒント　使用しているホストおよびドメインに必ず置き換えてください。

図 3-5　Sun ONE Portal Server サンプルポータルデスクトップ



2. リンクおよびタブをクリックすることによりサンプルポータルデスクトップを確認します。

   サンプルポータルデスクトップは、サンプル JSP チャネルなどの、Portal Server サンプルデスクトップコンテナで構成されます。それぞれのデスクトップコンテナは、チャネルにより提供されるコンテンツを保持および表示します。評価配備例で使用されるサンプルポータルの詳細については、『Sun ONE Portal Server 6.2 Desktop Customization Guide』を参照してください。

「Messaging Server インスタンスの設定」に進みます。

注 Java Enterprise System を複数のマシンに配備する設定をしている場合、Messaging Server および Calendar Server のインスタンスを作成する前の、設定処理のこの段階で、管理サーバーのインスタンスを作成する必要があります。この手順は複数のマシンへの配備について説明する配備例の中で説明されます。

この例のように、単一マシンへの配備の場合、管理サーバーインスタンスを作成する必要はありません。この配備例では、この手順は省略します。

Messaging Server インスタンスの設定

Directory Server と Application Server を起動し、Identity Server と Portal Server を確認した後に、Messaging Server と Calendar Server のインスタンスを作成し、これらのコンポーネントを起動します。

ここでは、Messaging Server インスタンスの作成および起動方法について説明します。ここでは次について説明します。

- Directory Server を Messaging Server および Calendar Server と連携して機能させるための設定方法
- サーバーコンソールを使用して、Directory Server への変更点を確認する方法
- Messaging Server 設定ウィザードを使用して、Messaging Server インスタンスを作成する方法
- Messaging Server インスタンスを起動および停止する方法

ヒント コンポーネントの設定の詳細については、『Java Enterprise System インストールガイド』の第 8 章「インストール後の設定を起動」を参照してください。

Directory Server 準備ツールの実行

Messaging Server と Calendar Server のインスタンスを設定する前に、Sun ONE Directory Server 準備ツールを使用して、Sun ONE LDAP のいずれかのスキーマ、および他の設定を Directory Server インスタンスに適用します。この設定手順は、Directory Server が、Messaging Server および Calendar Server と相互運用するための準備を行います。

この手順は、Directory Server 準備ツール (`comm_dssetup.pl` と呼ばれる Perl スクリプト) を実行する方法、ユーザーの LDAP ディレクトリサーバーを Messaging Server、Calendar Server、およびユーザー管理ユーティリティ (`commadmin`) と共に実行する設定を行う方法について説明します。

➤ **Directory Server 準備ツールを実行するには**

1. 準備ツールのディレクトリに移動します。

   ```
   cd /opt/SUNWmsgsr/lib
   ```

2. 次のコマンドを実行して、準備ツールを起動します。

   ```
   perl comm_dssetup.pl
   ```

3. 準備ツールは一連のメッセージを表示し、次のプロンプトを表示します。「Do you want to continue?」

   「Y」と入力し、Enter キーを押して続行します。

   注 プロンプトに応答する場合は、Java Enterprise System インストーラを実行したときに入力した値を入力するようにします。インストーラで作成した Sun ONE Directory Server インスタンスの操作を行うために準備ツールが必要です。

   これらの値の詳細については、表 3-1 を参照してください。

4. 準備ツールによりプロンプトが表示されたら、Sun ONE Directory Server がインストールされたディレクトリのフルパスを入力します。

   デフォルト値 (`/var/opt/mps/serverroot`) を受け入れ、Enter キーを押して続行します。

5. 準備ツールにより Directory Server のインスタンスが番号表示されたリストが表示され、次のプロンプトが表示されます。「Which instance do you want?」[1]

   Java Enterprise System インストーラで作成したインスタンスを選択する必要があります。このインスタンス名は、Java Enterprise System をインストールしたマシン名で終わります。評価配備例の場合、通常、マシン上に 1 つのみのインスタンスがあります。

このプロンプト (1) に対するデフォルト値が、適切なインスタンスを指定していることを確認し、Enter キーを押してデフォルト設定を受け入れ、続行します。複数のインスタンスがある場合、任意の適切なインスタンス数を入力し、Enter キーを押して処理を続行します。

6. 準備ツールによりプロンプトが表示されたら、Directory Manager の DN を入力します。[cn=Directory Manager]

   デフォルト値が「cn=Directory Manager」であることを確認し、Enter キーを押して続行します。

7. 準備ツールにより、Directory Manager のパスワードを要求するプロンプトが表示されます。「password」と入力し、Enter キーを押して続行します。

注 Java Enterprise System インストーラの「ディレクトリサーバー : 管理」ページを設定する場合には、Directory Manager のパスワードを使用する必要があります。詳細は、37 ページの「管理サーバーの情報を入力するには」を参照してください。

---

8. 準備ツールにより次のプロンプトが表示されます。「Will this directory server be used for users/groups?」

   Enter キーを押して、デフォルト値の「Yes」を受け入れ、続行します。

9. 準備ツールにより、プロンプトが表示されたら、ユーザーまたはグループベースのサフィックスを入力します。[o=usergroup]

   ドメインを識別する値を入力する必要があります。たとえば、ここで使用しているドメイン名は example.com のため、「`dc=example,dc=com`」と入力します。

注 ドメイン名にサブドメインが含まれる場合、名前の各要素を個別に指定する必要があります。たとえば、ドメイン名が、my.example.com の場合、「`dc=my,dc=example,dc=com`」と入力する必要があります。

---

10. 準備ツールにより、Sun ONE LDAP スキーマのリストが表示され、プロンプトが表示されたら、「Schema Type (1, 1.5, 2)」を入力してください。

    「2」と入力し、Enter キーを押して続行します。

11. 準備ツールにより次のプロンプトが表示されます。「Do you want to update the schema files?」[Yes]

    Enter キーを押して、デフォルト値 (Yes) を受け入れ、続行します。

12. 準備ツールにより次のプロンプトが表示されます。「Do you want to configure new indexes?」[Yes]

Enter キーを押して、デフォルト値 (Yes) を受け入れ、続行します。

13. 準備ツールは入力した値の要約を表示し、次のプロンプトを表示します。「Do you want to continue?」[Y]

    入力した値を確認します。Enter キーを押して、デフォルト値 (Y) を受け入れ、続行します。

    準備ツールは「generating files」で始まる、一連の情報メッセージを表示します。

14. 準備ツールは、スクリプトファイルを生成し、次のプロンプトを表示します。「Ready to execute the script now. Do you want to continue?」[Y]

    Enter キーを押して、デフォルト値 (Y) を受け入れ、続行します。

15. 準備ツールは生成されたスクリプトを実行し、Sun ONE Directory Server インスタンスを設定します。

    スクリプトは、「Successful Completion」で終了する、一連の情報メッセージを表示します。

表 3-1　Directory Server 準備ツールの入力値

項目	説明
Directory server root	Directory Server マシン上の、Directory Server インストールルートの場所を指定する。この配備では、サーバールートは、`/var/opt/mps/serverroot` になる
Directory server instance	Directory Server の複数のインスタンスがマシンに配備されている場合、Messaging Server で設定されるインスタンスを 1 つ選択する。この配備では、インスタンスは 1 つだけである
Directory Manager (DN)	Directory Manager の DN (`cn=Directory Manager`) は、組織ツリーのユーザーおよびグループデータに対して責任を持つ管理者である。このスクリプトで指定した Directory Manager の DN は、Messaging サーバーのインストールだけでなく、Directory Server のインストールで設定した DN と同じであることを確認する。この配備では、`cn=Directory Manager` を使用する
Will this directory server be used for users/groups?	この配備の場合、`Yes` と答える。次に、DC ツリーベースのサフィックス、およびユーザーの組織ツリーに対するユーザーおよびグループベースのサフィックスの選択に関する質問に答える

表 3-1　Directory Server 準備ツールの入力値 (続き)

項目	説明
Users/Groups base suffix	ユーザー、グループベースのサフィックスは、組織のツリーでの先頭のエントリで、ユーザーおよびグループのエントリの名前空間を保持する。選択したユーザーおよびグループベースのサフィックスが、Directory Server のインストールおよび Messaging Server のインストールで指定したサフィックスと同じであることを確認する Identity Server をインストールした場合、Identity Server のインストールで指定したサフィックスがこの質問で指定したサフィックスと同じであることを確認する。同じサフィックスを使用してない場合、Messaging Server は、Identity Server のインストールを認識しない この配備では、`dc=example,dc=com` を使用する
Schema type	この配備では Sun ONE LDAP v.2 を使用しているので、オプション 2 を選択する
Update schema files?	この配備の場合、`Yes` と答える。新しい要素がスキーマに追加される
Configure new indexes?	この配備の場合、`Yes` と答える。新しいインデックスがキャッシュを作成するために使用され、ディレクトリ検索の効率を高める

Directory Server の設定の確認

この手順は、Sun ONE サーバーコンソールを使用して、Directory Server 準備ツールにより行われた設定を確認する方法について説明します。63 ページの「Directory Server 準備ツールの実行」では、Directory Server 準備ツールを実行し、Java Enterprise System コンポーネントすべてに対する、共有ユーザーディレクトリとして使用するために、Directory Server を設定しました。

➤ **Directory Server が共有ユーザーディレクトリとして設定されたことを確認するには**

1. `serverroot` ディレクトリに移動します。

   ```
   cd /var/opt/mps/serverroot
   ```

2. `startconsole` コマンドを実行します。

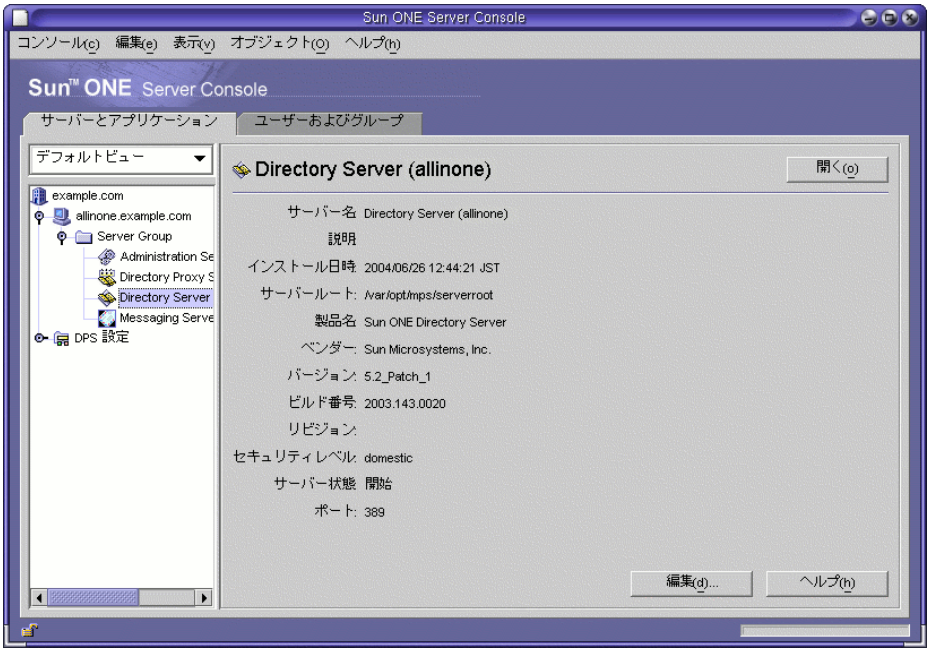
   ```
   ./startconsole
   ```

   「Sun ONE サーバーコンソールログイン」ダイアログが表示されます。

3. 「Sun ONE サーバーコンソールログイン」ダイアログで、管理者の ID およびパスワードを入力し、次に「了解」をクリックします。

   Sun ONE Server コンソールが開きます。

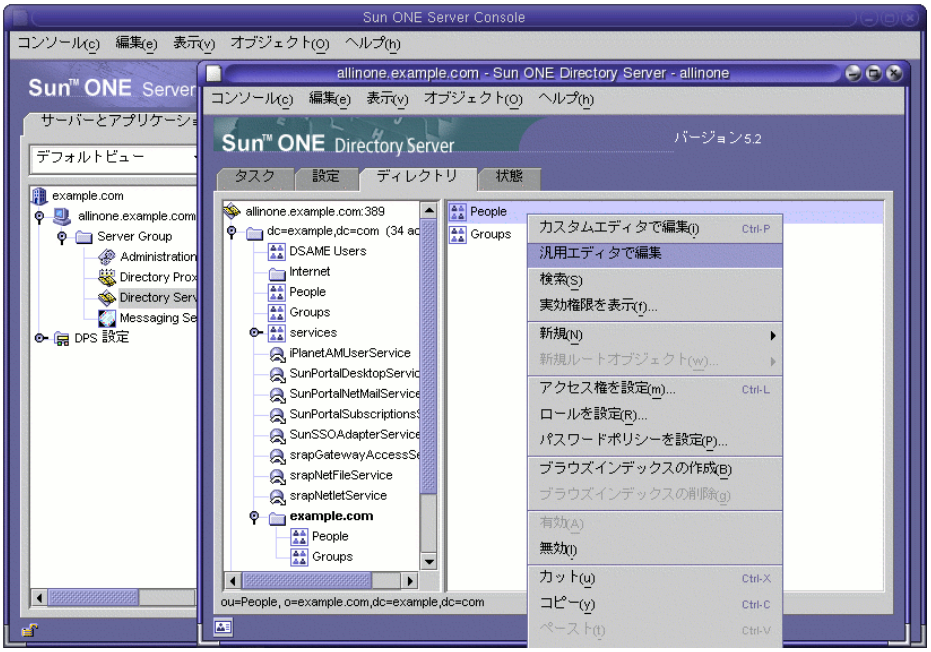
図 3-6　　Sun ONE Server コンソール



4. 「サーバーとアプリケーション」タブのノードを、「Directory Server」ノードが表示されるまで展開します。図 3-6 は example.com ドメインに関する画面を表示します。ノードが、「Directory Server (allinone)」ノードが表示されるまで展開されました。使用している管理サーバーのドメインおよびホスト名に対しても同様の画面が表示されます。

   「Directory Server」ノードをダブルクリックします。「Sun ONE Directory Server」ウィンドウが開きます。

図 3-7　　「Sun ONE Directory Server」ウィンドウ



5. 「Sun ONE Directory Server」ウィンドウで次のことを行います。

   a. 「ディレクトリ」タブをクリックします。

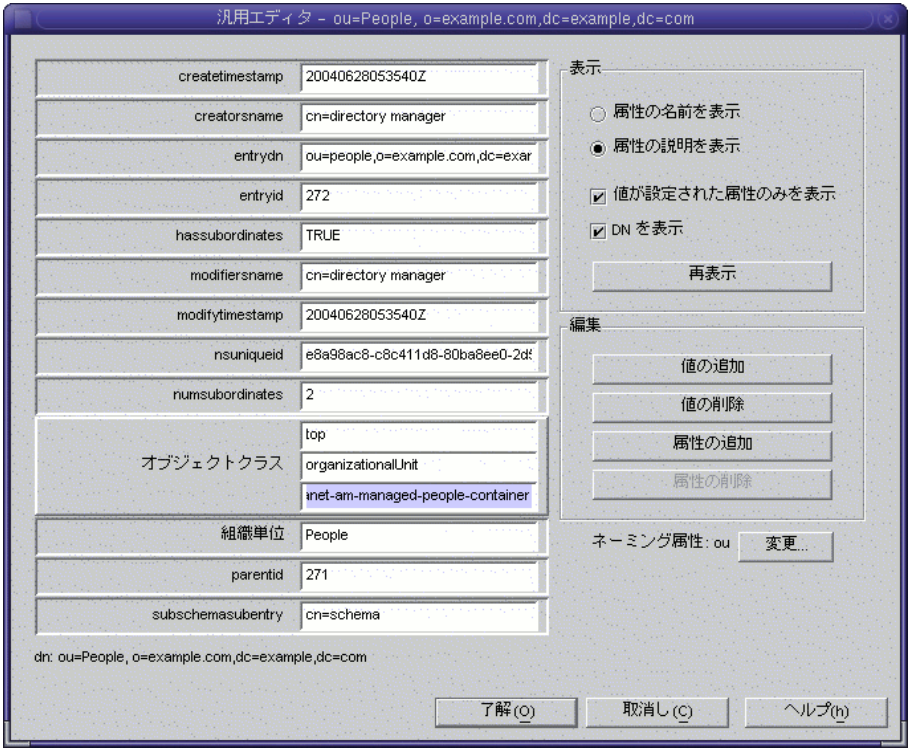
   b. ノードを展開して、新しい、2 レベルの、共有されたディレクトリ構造を確認します。図 3-7 と図 3-2 を比較します。example.com 組織の新しいノードに注目します。使用している組織に対しても、同様のノードが表示されます。

      組織名のフォルダのノードをクリックします。画面が更新されます。右区画に、組織名のフォルダの内容が表示されます。

   c. 右区画で、「People」コンテナを右クリックし、次にメニューから「汎用エディタで編集」を選択します。

      「汎用エディタ」が開きます。

図 3-8　　「汎用エディタ」



6. 「汎用エディタ」で、オブジェクトクラスが、`iplanet-am-managed-people-container` であることを確認します。これにより、Sun ONE LDAP スキーマ、バージョン 2 を使用する Directory Server を正しく構成したことが確認されます。「了解」をクリックしてエディタを閉じます。
7. コンソールを終了します。

Messaging Server インスタンスの作成

この手順は、Sun ONE Messaging Server 設定ウィザードを実行して、Messaging Server のインスタンスを作成および起動する方法を示します。

➤ **Messaging Server 設定ウィザードを実行するには**

1. Sun ONE Messaging Server ディレクトリに移動します。

   ```
   cd /opt/SUNWmsgsr/sbin
   ```

2. `configure` コマンドを実行します。

   ```
   ./configure
   ```

   設定ウィザードの「ようこそ」ページが表示されます。

3. 「ようこそ」ページで、「次へ」をクリックします。

   設定ウィザードの「ソフトウェアライセンス契約」ページが表示されます。

4. 「ソフトウェアライセンス契約」ページで、「Accept」をクリックします。

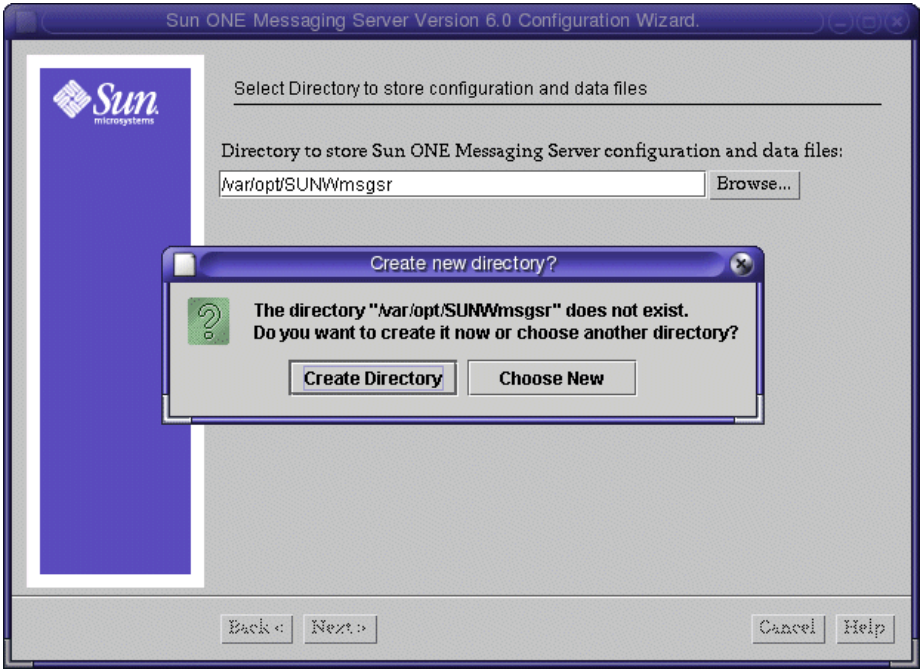
   「Select Directory to Store Configuration and Data Files」ページが表示されます。

5. 「Select Directory to Store Configuration and Data Files」ページで、`/var/opt/SUNWmsgsr` のデフォルト値を受け入れます。「次へ」をクリックします。

   図 3-9 に示すように、「Create new directory?」というメッセージが表示されます。

注 Java Enterprise System を以前インストールしてアンインストールした場合は、`/var/opt/SUNWmsgsr` が空ではない、という異なるメッセージが表示されます。既存のディレクトリを上書きするためにクリックします。

図 3-9 「Create New Directory」メッセージ



6. 「Create new directory?」メッセージで、「Create Directory」をクリックします。

   「Select Components to Configure」ページが表示されます。

7. 「Select Components to Configure」ページで、Message Transfer Agent、Message Store、および Messenger Express がデフォルト値として選択されていることを確認します。

   - Message Transfer Agent : ルーティング処理、ユーザーメールの配信、および SMTP 認証の処理を行う。MTA は、ホストされるドメイン、ドメインのエイリアス設定、およびサーバー側のフィルタに対するサポートを提供する
   - Message Store : 汎用 Message Store を通して、メッセージサービスを統合する基盤を提供する。メッセージ格納へは、複数のプロトコル (HTTP、POP、IMAP) からアクセス可能。Message Store だけを設定している場合、MTA も選択する必要がある
   - Messenger Express : Message Store からメッセージを取り出す HTTP プロトコルを処理する。Messenger Express だけを設定している場合、Message Store および MTA も選択する必要がある

   「Next」をクリックしてデフォルトの値を受け入れ、続行します。「Sun ONE Messaging Server User and Group」ページが表示されます。

8. 「Sun ONE Messaging Server User and Group」ページで、次のデフォルト値を確認します。
   - Enter Unix username: `mailserv`
   - Enter Unix group: `mail`

   「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。「Configuration Directory Server Panel」ページが表示されます。
9. 「Configuration Directory Server Panel」ページで、次のデフォルト値を確認します。
   - Config Server LdapURL: `ldap://allinone.example.com:389`
   - Bind as: `cn=Directory Manager`

   次の値を入力します。
   - Password: `password`

   「次へ」をクリックします。「User/Group Directory Server Panel」ページが開きます。

注 入力したパスワードは、「ディレクトリサーバー : 管理」ページで、Directory Server に対して設定した、Directory Manager パスワードと一致している必要があります。これにより、Messaging Server が Sun ONE Directory Server にアクセスできます。37 ページの「Directory Server の情報を入力するには」を参照してください。

---

10. 「User/Group Directory Server Panel」ページで、次のデフォルト値を確認します。
    - User/Group Server LdapURL: `ldap://allinone.example.com:389`
    - Bind as: `cn=Directory Manager`
    - Password: `password`

    「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。「Postmaster Email Address」ページが表示されます。

注 入力したパスワードは、「ディレクトリサーバー : 管理」ページで、Directory Server に対して設定した、Directory Manager パスワードと一致している必要があります。

---

11. 「Postmaster Email Address」ページで次の値を入力します。
    - Enter email address: `scott@example.com`

「次へ」をクリックします。「Password for all admin accounts」ページが表示されます。

ヒント 使用しているドメインに必ず置き換えてください。

---

12. 「Password for all Admin Accounts」ページで、次の値を入力して Messaging Server の管理パスワードを設定します。
    - Enter password: `password` が推奨されます。
    - Re-enter password to verify: `password`

    「次へ」をクリックします。「Default Email Domain」ページが表示されます。
13. 「Default Email Domain」ページで、次のデフォルト値を確認します。
    - Enter Email Domain: `example.com`

    「次へ」をクリックします。「Organization DN for the Default Email Domain」ページが表示されます。
14. 「Organization DN for the Default Email Domain」ページで、次のデフォルト値を確認します。
    - Enter Organization DN: `o=example.com, dc=example.com`

    「次へ」をクリックします。「Ready to Configure」ページが表示されます。

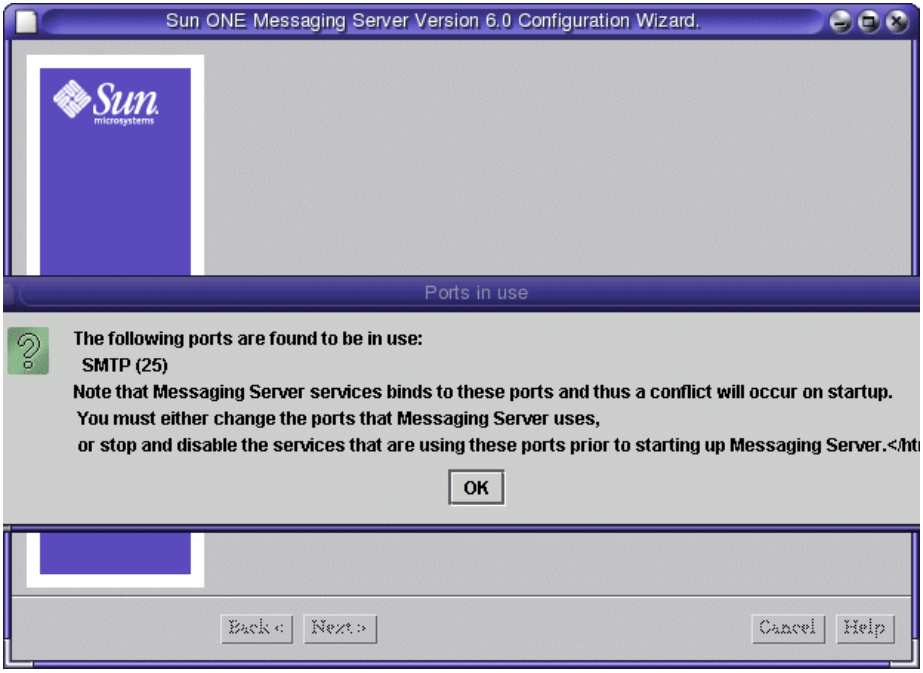
ヒント 使用しているホストおよびドメインに必ず置き換えてください。

---

15. 「Ready to Configure」ページで、情報を確認します。「Configure Now」をクリックします。

    図 3-10 に示される、「Ports in Use」メッセージが表示される場合があります。

図 3-10　　「Ports In Use」メッセージ



16. 「Ports in Use」メッセージが表示された場合、次のことを行います。
    a. 「OK」をクリックします。
    b. 端末ウィンドウを開きます。設定ウィザードを停止しないでください。
    c. 端末ウィンドウで、`grep` コマンドを使用して、`sendmail` プロセスを検索します。

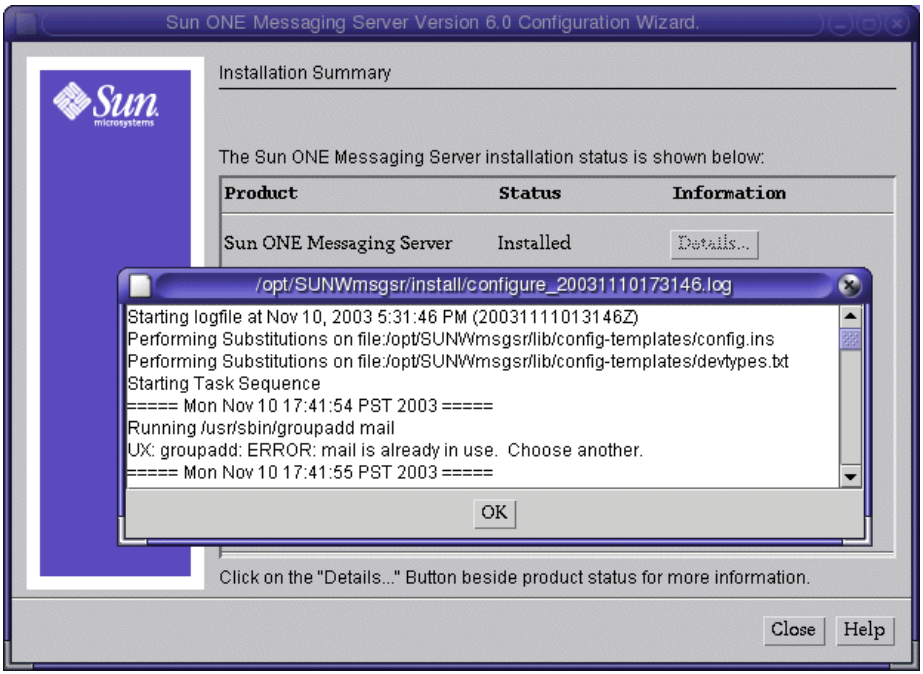
       ```
       ps -ef | grep sendmail
       ```

    d. `pkill` コマンドを使用して、`sendmail` プロセスを終了します。

       ```
       pkill sendmail
       ```

    e. 「Ready to Configure」ページに戻ります。
17. 設定プロセスが完了すると、「Installation Summary」ページが表示されます。

図 3-11　「Installation Summary」ページ



18. 「Installation Summary」ページで、詳細を表示し、「Close」をクリックします。
19. 次のコマンドを実行し、Messaging Server の WebMail の Web インタフェース用の待機ポートを設定します。
    a. `cd /opt/SUNWmsgsr/sbin`
    b. `./configutil -o service.http.port -v 88`
    c. `./configutil -o service.http.sslport -v 448`
20. Messaging Server のプロセスを、停止および再起動して、作成した設定を有効にします。
    a. `cd /opt/SUNWmsgsr/sbin`
    b. `./stop-msg`
    c. `./start-msg`

Calendar Server インスタンスの設定

この手順は、Sun ONE Calendar Server 設定ウィザードを実行して、Calendar Server のインスタンスを作成および起動する方法を示します。設定ウィザードを実行するには次のことを実行します。

1. Calendar Server ディレクトリに移動します。

   ```
   cd /opt/SUNWics5/cal/sbin
   ```

2. csconfigurator コマンドを実行します。

   ```
   ./csconfigurator.sh
   ```

   ヒント Calendar Server 設定プログラムは、サイトの必要条件を設定し、新しい ics.conf 設定ファイルを作成します。Calendar Server の設定の詳細については、『Sun ONE Calendar Server Installation Guide for Solaris Operating Systems』(http://docs.sun.com/doc/816-6707-10) を参照してください。

   設定ウィザードの「ようこそ」ページが表示されます。

3. 「ようこそ」ページで、「次へ」をクリックして続行します。

   「Administration」ページ、「User Preferences」ページ、および「Authentication」ページが表示されます。

4. 「Administration」ページ、「User Preferences」ページ、および「Authentication」ページで、次の値を入力します。

   - LDAP Server Host Name: allinone.example.com
   - LDAP Server Port: 389
   - Directory Manager DN: cn=Directory Manager
   - Directory Manager Password: password
   - Base DN: o=example.com,dc=example,dc=com

   次のデフォルト値を確認します。

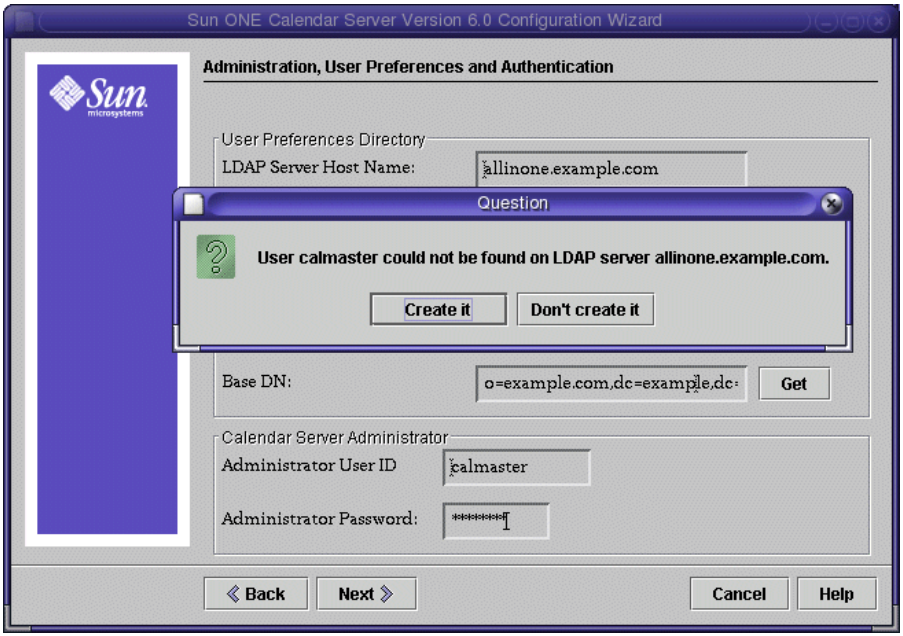
   - Administrator User ID: calmaster
   - Administrator Password: password

   「Next」をクリックします。「Question」ダイアログが表示されます。

   ヒント 使用しているホストおよびドメインに必ず置き換えてください。

注 入力した Directory Manager パスワードは、「ディレクトリサーバー：管理」ページで、Directory Server に対して設定した、Directory Manager パスワードと一致している必要があります。これにより、Calendar Server が Directory Server にアクセスできます。37 ページの「Directory Server の情報を入力するには」を参照してください。

図 3-12 「Question」ダイアログ



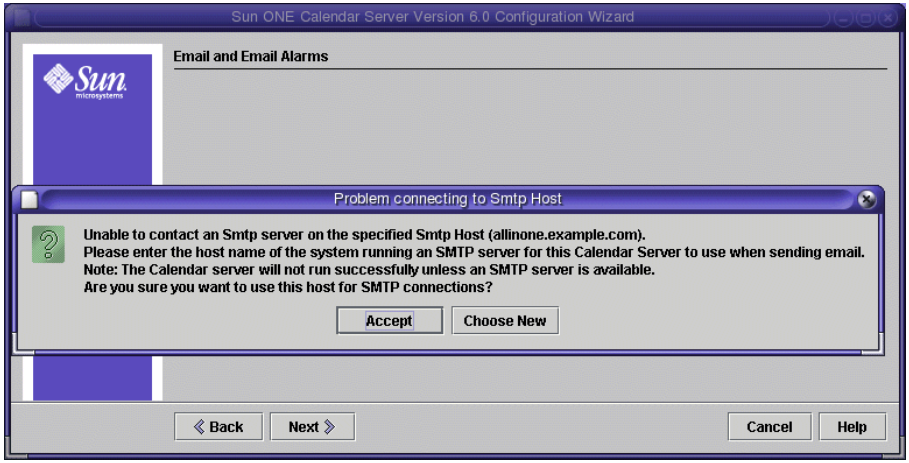
5. 「Question」ダイアログで、`calmaster` ユーザーを作成するために、「Create it」をクリックします。

   「Email and Email Alarms」ページが表示されます。

6. 「Email and Email Alarms」ページで、次の値を入力します。
   - Email alarms: `Enabled`
   - Administrator Email Address: `scott@example.com`
   - SMTP Host Name: `allinone.example.com`

   「次へ」をクリックします。図 3-13 に示されるように、「Problem connecting to SMTP Host」ダイアログが表示される可能性があります。

図 3-13 「Problem Connection to SMTP Host」ダイアログ



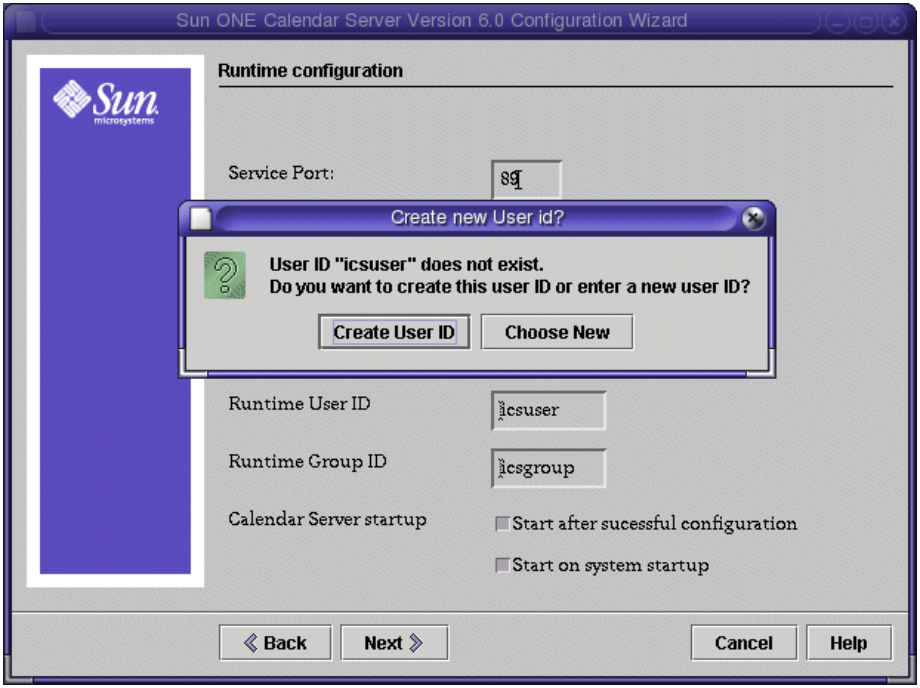
7. 「Problem connecting to SMTP Host」ダイアログで、「Accept」をクリックし、「Next」をクリックして続行します。この配備の目的は、ユーザーがこのホストを SMTP サーバーとして使用することです。

   「Runtime configuration」ページが表示されます。

8. 「Runtime Configuration」ページで、次の値を入力します。
   - Service Port: `89`
   - Maximum Sessions: `5000`
   - Maximum Threads: `20`
   - Number of server processes: `1`
   - Runtime User ID: `icsuser`
   - Runtime Group ID: `icsgroup`
   - Calendar Server Startup: 「Start after successful configuration」および「Start on System Startup」の両方を選択します。

   「Next」をクリックします。「Create New User ID」ダイアログが開きます。

図 3-14　「Create New User ID」ダイアログ



9. 「Create New User ID」ダイアログで、「Create User ID」をクリックします。
10. 「Runtime configuration」ページで、「Next」をクリックします。

    「Select Directory to Store Configuration and Data Files」ページが表示されます。
11. 「Select Directory to Store Configuration and Data Files」ページで、デフォルト値を受け入れます。「次へ」をクリックして処理を継続します。

    「Ready to Configure」ページが表示されます。
12. 「Ready to Configure」ページで、「Configure Now」をクリックします。

    設定が完了すると、「Configuration Summary」ページが表示されます。

注　「Runtime Configuration」ページで、「Start after successful configuration」オプションを選択しました。ここで、Calendar Server が自動的に起動します。

---

13. 「Configuration Summary」ページで、詳細を表示し、「閉じる」をクリックします。

これで、この配備例で使用するすべてのサーバーを確認し、設定し、起動しました。
第 4 章「Java Enterprise System ユーザーのプロビジョニング」に進みます。

第 4 章

Java Enterprise System ユーザーのプロビジョニング

この章では、Identity Server を汎用のプロビジョニングツールとして設定し、Identity Server を使用する Java Enterprise System ユーザーをプロビジョニングする方法について説明します。この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 「Java Enterprise System ユーザーのプロビジョニングについて」
- 82 ページの「Identity Server のプロビジョニングツールとしての使用」
- 91 ページの「サンプルエンドユーザーのプロビジョニング」

Java Enterprise System ユーザーのプロビジョニングについて

Java Enterprise System ユーザーは、Java Enterprise System コンポーネントにより提供される 1 つまたは複数のサービスへのアクセス権を持つアカウントです。一部のサービスは、複数の Java Enterprise System コンポーネントが連携して機能することによって提供されます。

Java Enterprise System ユーザーという概念には、次の内容が含まれています。

- Identity Server、Portal Server、Messaging Server、Calendar Server、または Instant Messaging Server のいずれかの Java Enterprise System コンポーネントにより提供されるサービスを使用できるエンドユーザー
- Directory Server LDAP データベースエントリとして格納される、エンドユーザーデータで構成されるユーザーアカウント。ユーザーアカウントのデータには、ユーザーがアクセスする権限を与えられたサービスを識別する情報が含まれる。最も単純なシナリオでは、すべての Java Enterprise System サービスが、1 人のユーザー用のエントリを 1 つのユーザーアカウントに対して書き込む

ユーザーのプロビジョニングによって、ユーザーアカウントが作成され、ユーザーが Java Enterprise System サービスにアクセスできるようにします。

Java Enterprise System には、ユーザーのプロビジョニング、および LDAP ディレクトリエントリの操作のための、次のインタフェースを備えています。

- Identity Server コンソール
- Identity Server コマンド行ユーティリティ (Sun ONE LDAP Schema v.2 用)

この章では、Sun ONE Identity Server コンソールを使用するユーザーをプロビジョニングする方法について説明します。

運用システムでは、Java Enterprise System 管理者がユーザーを管理します。LDAP 組織計画、データベース管理、および委任管理を含むユーザー管理タスクは、この章では説明されません。

Identity Server のプロビジョニングツールとしての使用

ここでは、Identity Server を、汎用のプロビジョニングツールとして使用するために必要な LDAP 属性を設定する方法について説明します。Identity Server サービスを使用して、LDAP 属性を設定します。Identity Server サービスは、LDAP 属性をグループ化および管理するためのメカニズムです。

Identity Server サービスは、エンドユーザーサービスではありません。ここで説明されている、Sample Mail Server Service および Sample Calendar Server Service は、Identity Server LDAP 属性を追加することにより、エンドユーザーメールサービスおよびカレンダサービスを使用するユーザーをプロビジョニングできます。

Identity Server サービスの Identity Server へのインポート

Java Enterprise System インストーラは、2 つの Identity Server サービスに対する定義を行い、それにより、エンドユーザーメールサービスおよびカレンダサービスの管理のための LDAP 属性が追加されます。これらの定義は、2 つの XML (Extensible Markup Language) ファイルとして提供されます。これらの XML ファイルには、Sample Mail Server Service および Sample Calendar Server Service と呼ばれる Identity Server サービスが記述されています。

Sample Mail Server Service および Sample Calendar Server Service は、運用での使用を目的としていません。運用環境でのユーザープロビジョニングは、このサンプルサービスではサポートされない、バッチ処理操作で通常行われます。運用環境でのユーザープロビジョニング、運用環境でのユーザープロビジョニングで使用されるコマンド行ツールの詳細については、『Sun ONE Identity Server 6.1 管理ガイド』、および『Sun ONE Messaging and Collaboration 6.0 User Management Utility Installation and Reference Guide』を参照してください。

➤ Identity Server サービスを Identity Server にインポートするには

1. サンプルディレクトリに移動します。

   ```
   cd /opt/SUNWam/samples/integration
   ```

2. Sample Mail Server Service の `amadin` コマンドを実行します。

   ```
   /opt/SUNWam/bin/amadmin --runasdn
   "uid=amadmin,ou=people,dc=example,dc=com" --password password
   --schema sampleMailServerService.xml
   ```

   注 ドメイン名にサブドメインが含まれる場合、名前の各要素を個別に指定する必要があります。たとえば、my.example.com を使用する場合、`dc=my,dc=example,dc=com` と入力する必要があります。

3. サンプル Calendar Server サービスの `amadin` コマンドを実行します。

   ```
   /opt/SUNWam/bin/amadmin --runasdn
   "uid=amadmin,ou=people,dc=example,dc=com" --password password
   --schema sampleCalendarServerService.xml
   ```

4. `cp` コマンドを使用して、ローカライズを可能にする、関連プロパティファイルを `locale` ディレクトリにコピーします。

   ```
   cp sampleMailServerService.properties /opt/SUNWam/locale
   ```

   ```
   cp sampleCalendarServerService.properties /opt/SUNWam/locale
   ```

5. Identity Server を停止します。

   ```
   /opt/SUNWam/bin/amserver stop
   ```

6. Application Server を停止し、再起動します。

   ```
   cd /var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1/server1/bin
   ```

   ```
   ./stopserv
   ```

   ```
   ./startserv
   ```

   Application Server の再起動により、Identity Server も再起動されます。

Identity Server サービスの登録

ここでは、Identity Server コンソールを使用して、管理サーバーのドメインおよび LDAP 組織で使用する Sample Mail Server Service および Sample Calendar Server Service を登録します。

➤ 管理サーバードメインに使用するサンプルサービスを登録するには

1. Web ブラウザで、次の URL を開きます。

   `http://example.com:81/amconsole`

   「ログイン」ダイアログが表示されます。

   ヒント 使用しているホストおよびドメインに必ず置き換えてください。

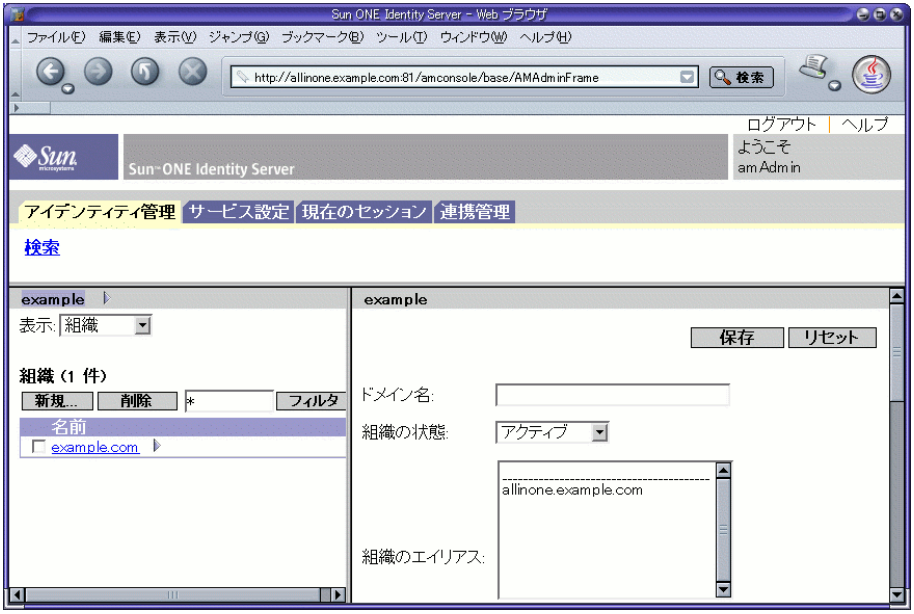
   URL には、URI `amconsole` が含まれます。この URI をインストーラの「アイデンティティサーバー : Sun ONE Identity Server サービスを実行するために Web コンテナ」ページで指定しました。38 ページの「Identity Server の情報を入力するには」を参照してください。

2. 「ログイン」ダイアログで、管理ユーザー ID (デフォルト値は `amadmin`) およびパスワードを入力します。「了解」をクリックします。

   ブラウザで、Identity Server 管理コンソールが表示されます。図 4-1 は、例のドメインに関する情報を表示する管理コンソールを示します。「検索」という語の真下の左パネルに、ドメイン名が表示され、強調表示されています。

   注 インストーラの「アイデンティティサーバー : Sun ONE Application Server (3/6)」ページで、管理ユーザー ID およびパスワードを定義しました。38 ページの「Identity Server の情報を入力するには」を参照してください。

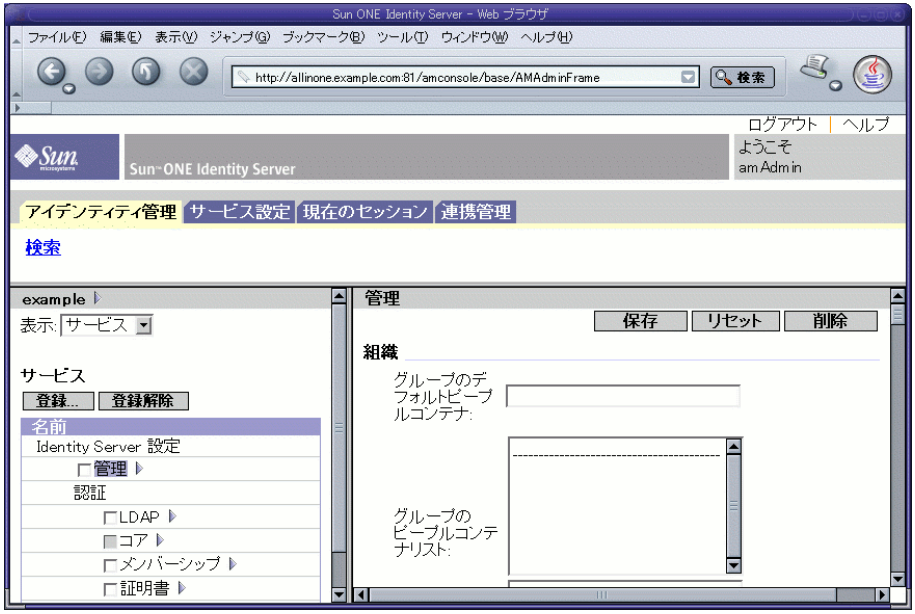
図 4-1　　Sun ONE Identity Server コンソール



3. 左区画で、「表示」ドロップダウンメニューを開き、「サービス」を選択します。

   ウィンドウが更新され、左区画にドメインのサービスのリストが表示されます。図 4-2 は、サービスのリストを表示するコンソールウィンドウを示します。「表示」メニューに「サービス」と表示されていることに注意します。

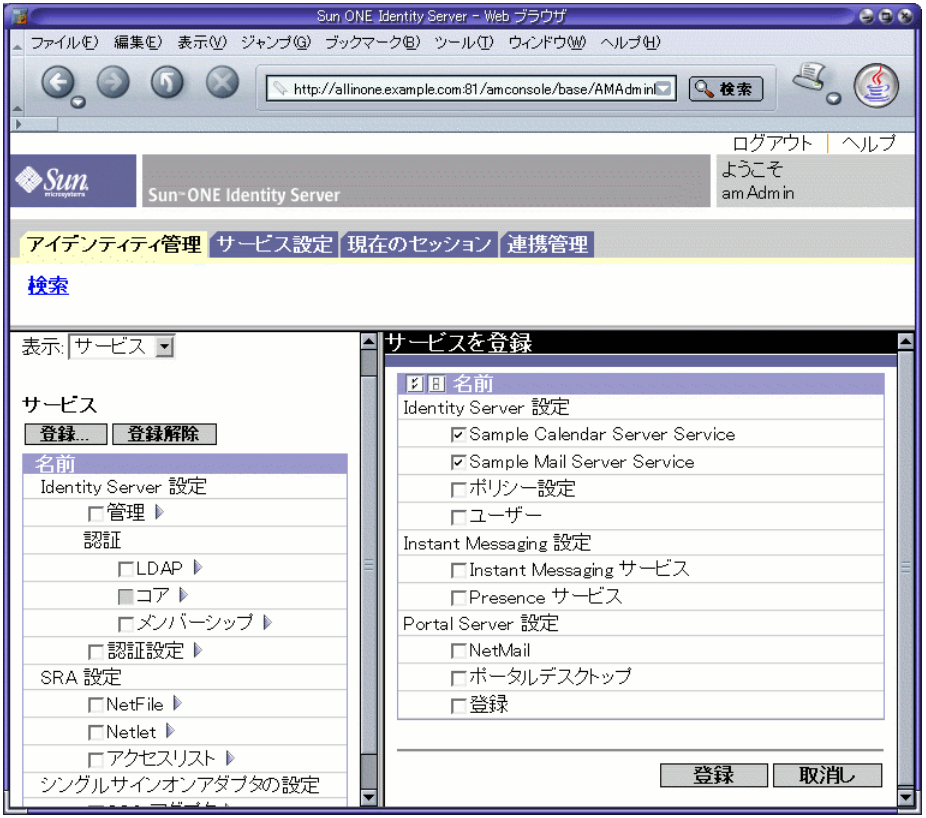
図 4-2　　サービスのリストの表示



4. 左区画で、「登録」をクリックします。

   登録可能なサービスのリストが、右区画に表示されます。表示は、図 4-3 のようになります。

図 4-3　　ドメインへのサービス登録



5. 「Sample Calendar Server Service」と「Sample Mail Server Service」を選択し、登録します。

   a. リストの一番下までスクロールします。

   b. 「Sample Calendar Server Service」と「Sample Mail Server Service」を選択します。

   c. リストの一番下に表示されている、「登録」ボタンをクリックします。

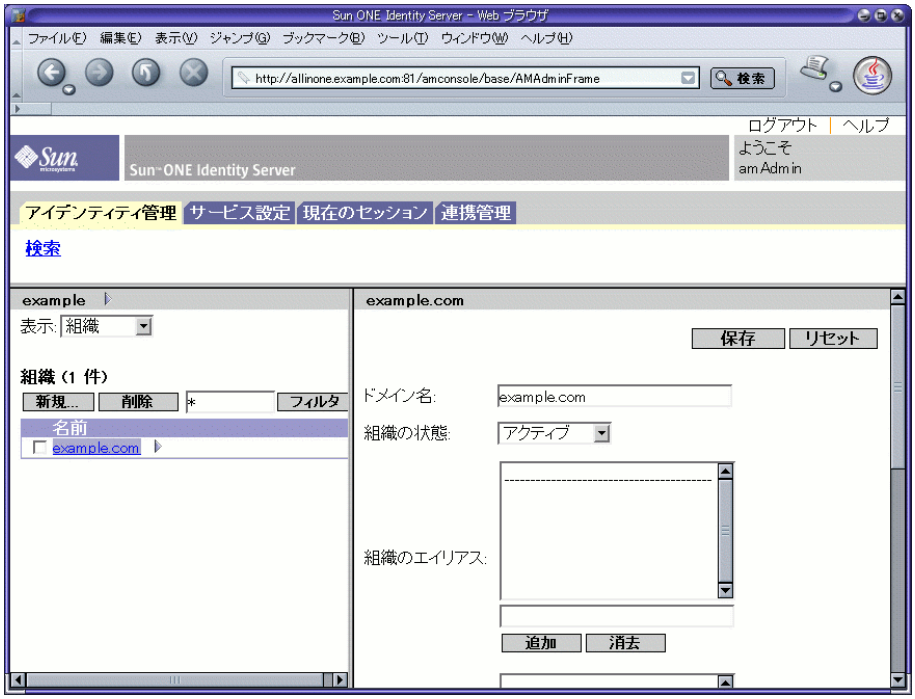
   表示が更新されます。左区画で、「Sample Calendar Server Service」と「Sample Mail Server Service」が、登録されたサービスのリストに追加されています。

➤ ユーザーの組織にサンプルサービスを登録するには

1. 左区画で、「表示」メニューを開き、「組織」を選択します。

   ウィンドウが更新され、左区画にドメインの組織のリストが表示されます。図 4-4 は、例のドメインの組織のリストを示します。

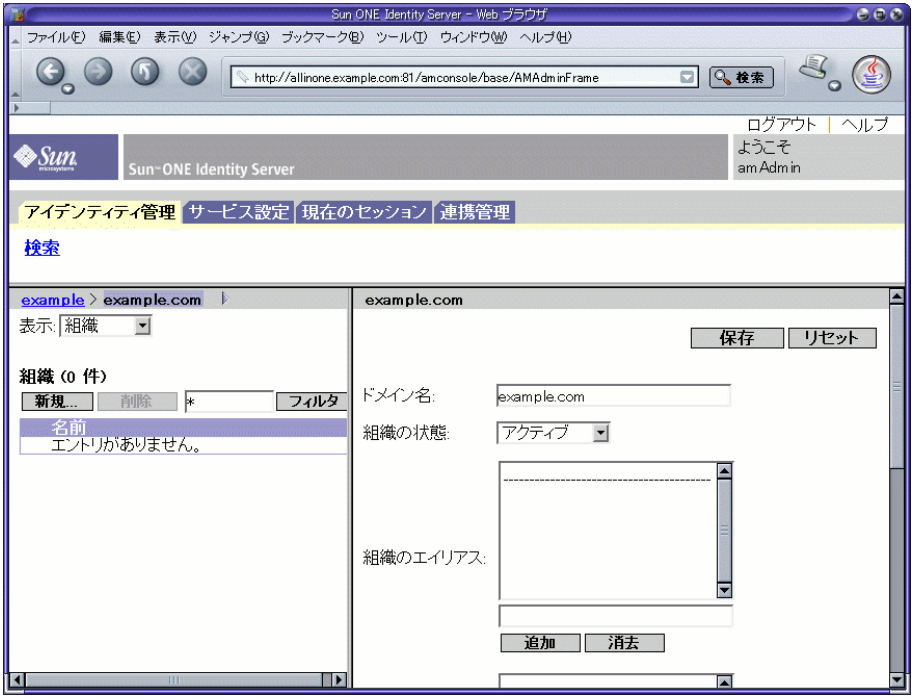
図 4-4　　例のドメインの組織のリスト



2. 組織の名前をクリックします。

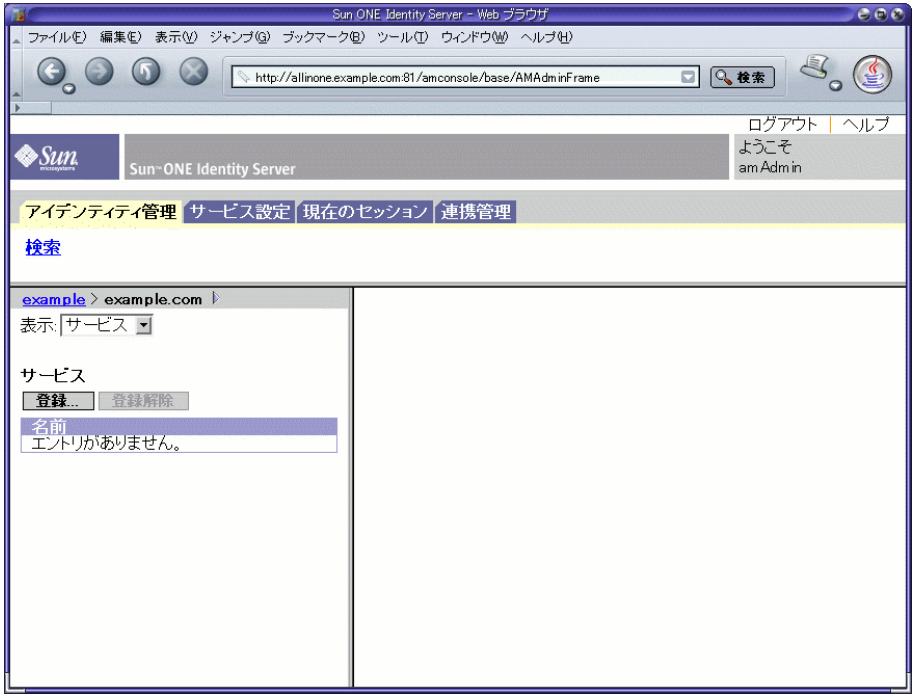
   ウィンドウが更新されます。左区画のタイトルバーに、ユーザーのドメインと組織が表示されます。表示は、図 4-5 のようになります。

図 4-5　　組織の選択



3. 左区画で、「表示」ドロップダウンメニューを開き、「サービス」を選択します。ウィンドウが更新されます。表示は、図 4-6 のようになります。

図 4-6　　Example.Com 組織のサービスの表示



4. 「登録」をクリックします。

   ウィンドウが更新され、右区画に登録可能なサービスのリストが表示されます。

5. 「Sample Calendar Server Service」、「Sample Mail Server Service」、「ポータルデスクトップ」、および「SSO アダプタ」を選択します。リストの一番下に表示されている、「登録」ボタンをクリックします。

   ウィンドウが更新されます。左区画の登録されたサービスのリストに、選択した 4 つのサービスが追加されています。

サンプルエンドユーザーのプロビジョニング

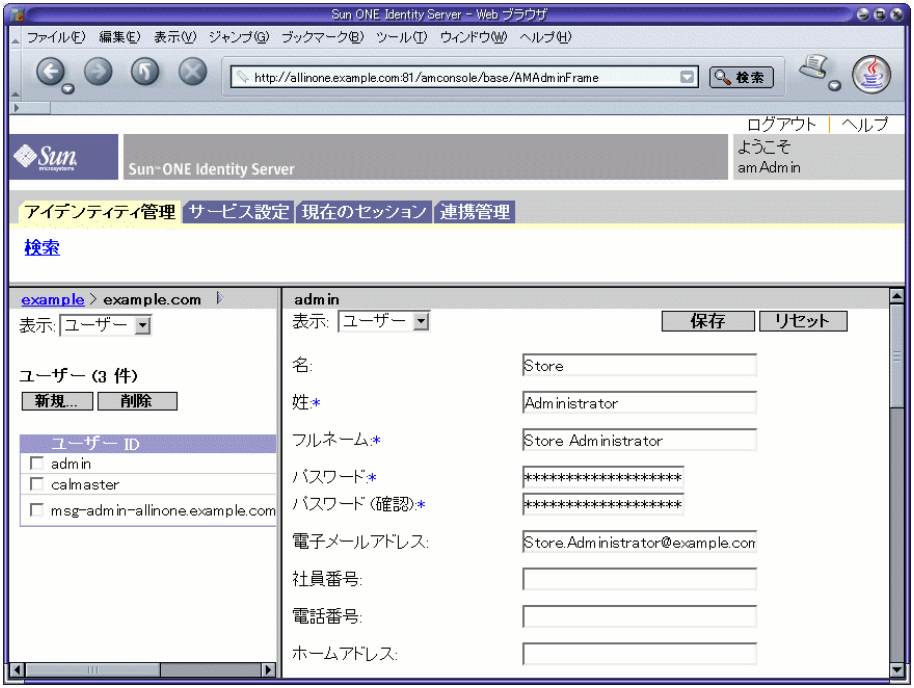
ここでは、Identity Server を使用して、エンドユーザーをプロビジョニングする方法について説明します。ユーザー名とパスワードを設定し、Sample Mail Server Service および Sample Calender Server Service を使用して、エンドユーザーサービスである Mail Express、Calendar Express にユーザーがアクセスできるようにします。

➤ サンプルエンドユーザーをプロビジョニングするには

1. 左区画で、「表示」ドロップダウンメニューを開き、「ユーザー」を選択します。

   ウィンドウが更新され、左区画に組織のユーザーのリストが表示されます。ディスプレイの表示は、図 4-7 のようになります。ここでは例となるドメイン組織でのユーザーのリストを表示しています。特に、ユーザーのリストには、`admin`、`calmaster`、および `msg-admin-allinone.example.com` が含まれます。

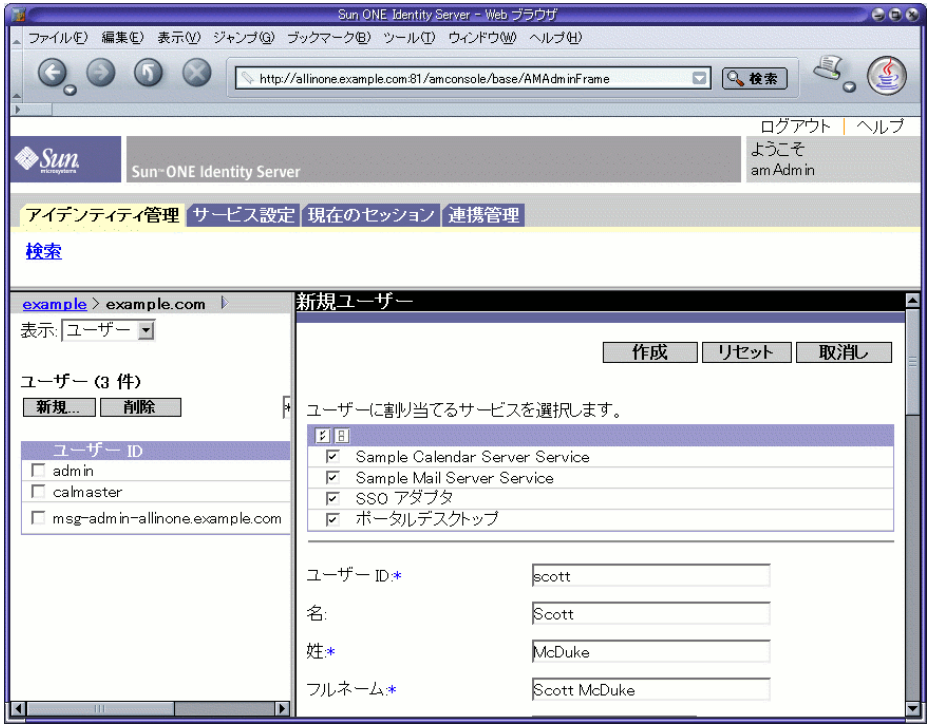
図 4-7　　Sun ONE Identity Server コンソールウィンドウ



2. 左区画で、「新規」をクリックします。

   ウィンドウが更新され、右区画に入力フィールドが表示されます。

図 4-8　　「新規ユーザー」フィールド



3. Java Enterprise System ユーザーを定義します。

   a. 「ポータルデスクトップ」、「Sample Calendar Server Service」、「Sample Mail Server Service」、および「SSO アダプタ」を選択します。

   b. ユーザー情報に次の値を入力します。

   - ユーザー ID: scott
   - 名 : Scott
   - 姓 : McDuke
   - フルネーム : Scott McDuke
   - パスワード : password
   - パスワード (確認): password

   「作成」をクリックします。

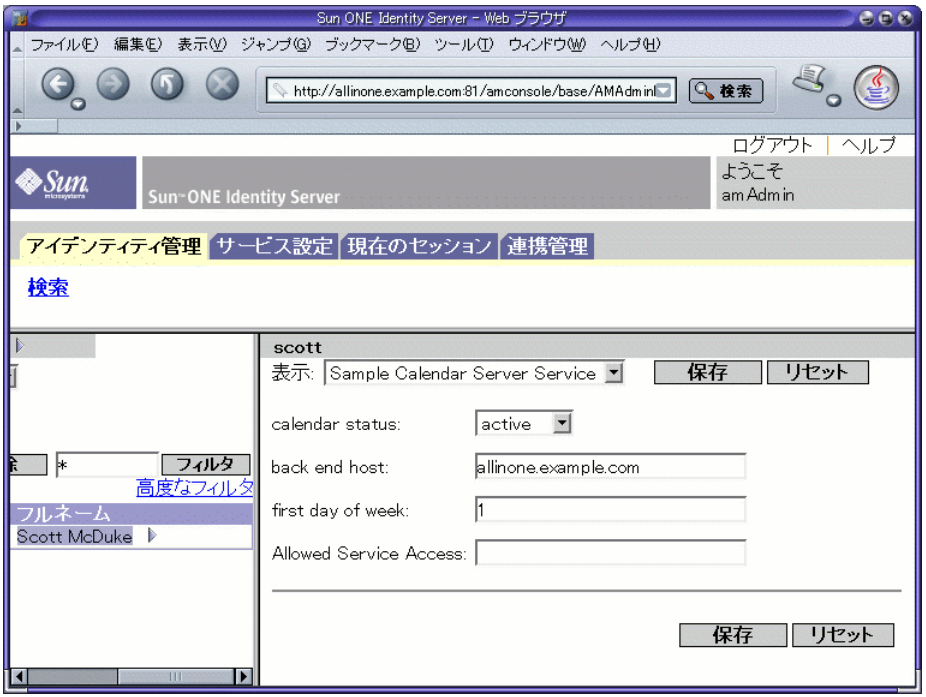
4. 「表示」メニューが表示されるまで、左区画を左にスクロールします。「表示」メニューを開き、「ユーザー」を選択します。

ウィンドウが更新されます。左区画に、作成したユーザーを含む、組織のユーザーのリストが表示されます。

5. 左区画を右にスクロールし、新しいユーザーのフルネームに続く矢印記号 (>) をクリックします。

   図 4-9 では、左区画に、新しいユーザーのフルネーム (Scott McDuke) および > 記号が表示されます。

図 4-9　　Sample Calendar Server Service のプロパティ



6. 右区画で、「表示」メニューを開き、「Sample Calendar Server Service」を選択します。ウィンドウが更新され、ユーザーの「Sample Calendar Service」プロパティが表示されます。

7. 次の値を入力します。

   - calendar status: active
   - back end host: allinone.example.com
   - first day of week: 1

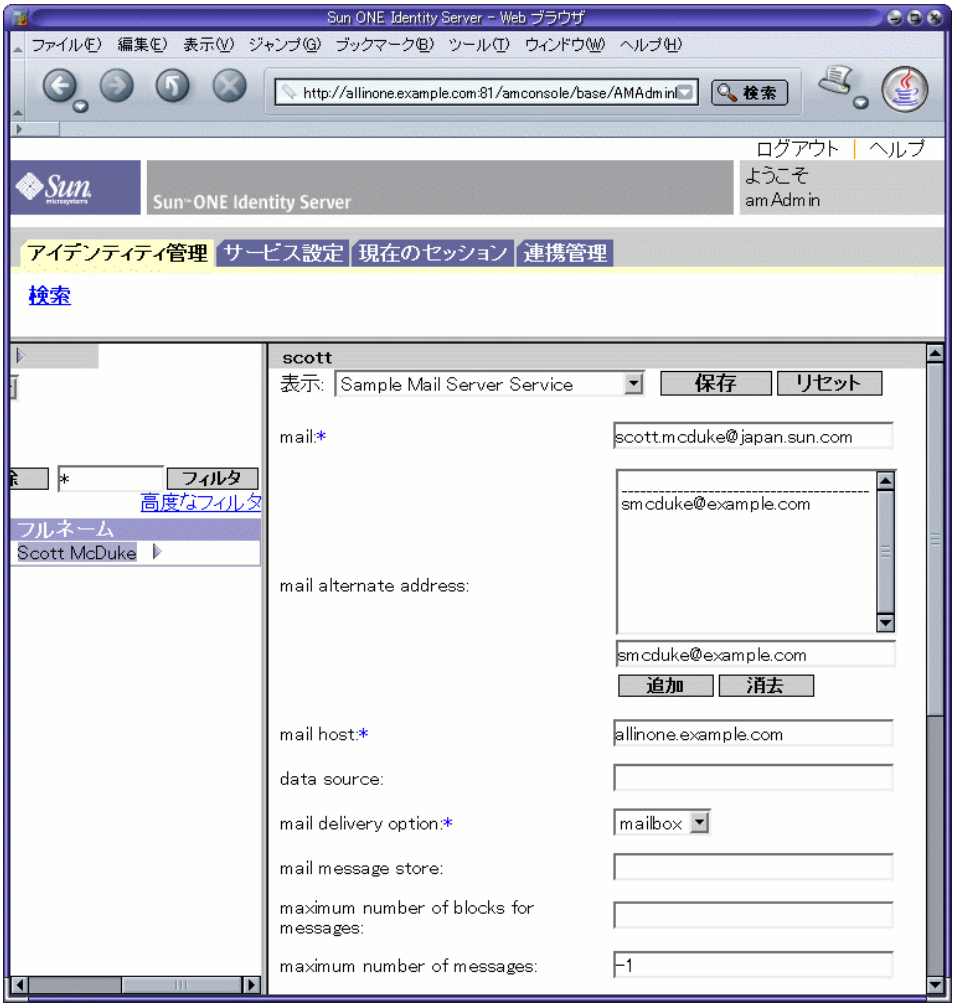
   「保存」ボタンをクリックします。

ウィンドウが更新され、ユーザープロパティが保存されたことを示すメッセージが表示されます。

8. 右区画で、「表示」メニューを開き、「Sample Mail Server Service」を選択します。

   ウィンドウが更新され、ユーザーの Sample Mail Server Service のプロパティが表示されます。

図 4-10　Sample Mail Server Service のプロパティ



9. Sample Mail Server Service のプロパティフィールドで、次の値を入力します。
   - mail: scott.mcduke@example.com
   - mail alternate address: smcduke@example.com

- mailhost: allinone.example.com
- mail delivery option: mailbox
- maximum number of messages: -1
- mail quota: -1

「保存」をクリックします。

ウィンドウが更新され、ユーザープロパティが保存されたことを示すメッセージが表示されます。

10. ページの右上隅にある「ログアウト」をクリックします。

第 5 章

Java Enterprise System サービスへのエンドユーザーアクセスの確認

この章は、第 4 章で作成したエンドユーザーアカウントが、インストールおよび設定した Java Enterprise System サービスにアクセスできることを確認する方法について説明します。これらのサービスには、サンプルポータルの Desktop、Messenger Express、および Calendar Express が含まれます。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 「Portal Server へのエンドユーザーアクセスの確認」
- 98 ページの「Messenger Express へのユーザーアクセスの確認」
- 100 ページの「Calendar Express へのユーザーアクセスの確認」

Portal Server へのエンドユーザーアクセスの確認

➤ **Portal Server へのエンドユーザーアクセスを確認するには**

1. Web ブラウザで、次の URL を開きます。

   `http://allinone.example.com:81/portal/`

ヒント	使用しているホストおよびドメインに必ず置き換えてください。

   Portal Server のサンプルデスクトップが開きます。

2. 「メンバーログイン」フィールドを使用して、第 4 章で作成したエンドユーザーとしてログインします。次の値を使用します。

   - ユーザー ID: scott

- パスワード : password

「ログイン」をクリックします。デスクトップが更新され、ユーザーに関する情報が表示されます。これにより、ユーザーが正常に作成および設定されたことが確認されます。

Messenger Express へのユーザーアクセスの確認

ここでは、Java Enterprise System エンドユーザーとして Messenger Express にログインし、電子メールを送信します。

Sun ONE Messenger Express は、Sun ONE Messaging Server インスタンスを作成および設定したときに選択した Java Enterprise System サービスです。Messaging Server Configurator Wizard の「Select Components to Configure」ページで選択しています。70 ページの「Messaging Server インスタンスの作成」を参照してください。

➤ **Messenger Express へのエンドユーザーアクセスを確認するには**

1. Web ブラウザで、次の URL を開きます。

   `http://allinone.example.com:88`

   Sun ONE Messenger Express の「ログイン」ページが開きます。

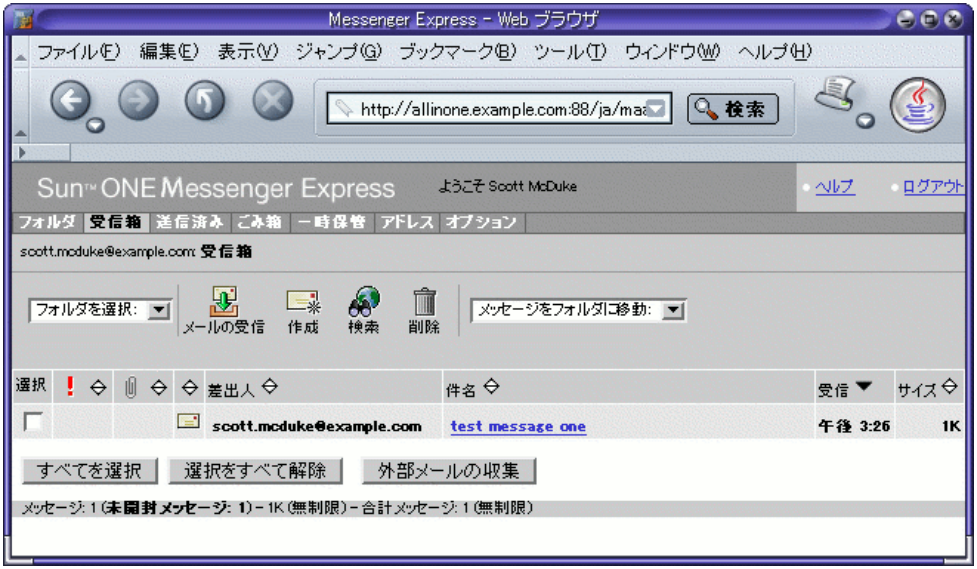
   ヒント 使用しているホストおよびドメインに必ず置き換えてください。

2. Sun ONE Messenger Express の「ログイン」ページで、次の値を入力します。

   - ユーザー ID: scott
   - パスワード : password

   「ログイン」をクリックします。Messenger Express のメインウィンドウが開きます。表示は、図 5-1 のようになります。

図 5-1　Sun ONE Messenger Express のメインウィンドウ



3. 「作成」ボタンをクリックします。

   「メッセージの作成」ウィンドウが開きます。

4. テストメッセージを作成します。

   a. 「差出人」フィールドに、`scott@example.com` を入力します。使用しているドメイン名に必ず置き換えてください。

   b. 「件名」フィールドに、「`test`」と入力します。

   c. 「送信」をクリックします。「メッセージの作成」ウィンドウが閉じます。

5. メインウィンドウで、「メールの受信」アイコンをクリックします。メインウィンドウに、配信されたメールが表示されます。

   a. 件名の行をクリックし、メッセージウィンドウのテストメッセージを開きます。

   b. メッセージウィンドウを閉じます。

6. Messenger Express のメインウィンドウの右上隅にある、「ログアウト」をクリックします。

Calendar Express へのユーザーアクセスの確認

➤ **Calendar Express へのエンドユーザーアクセスを確認するには**

1. Web ブラウザで、次の URL を開きます。

   `http://allinone.example.com:89`

   Sun ONE Calendar Express の「ログイン」ページが開きます。

2. Sun ONE Calendar Express の「ログイン」ページで、次の値を入力します。

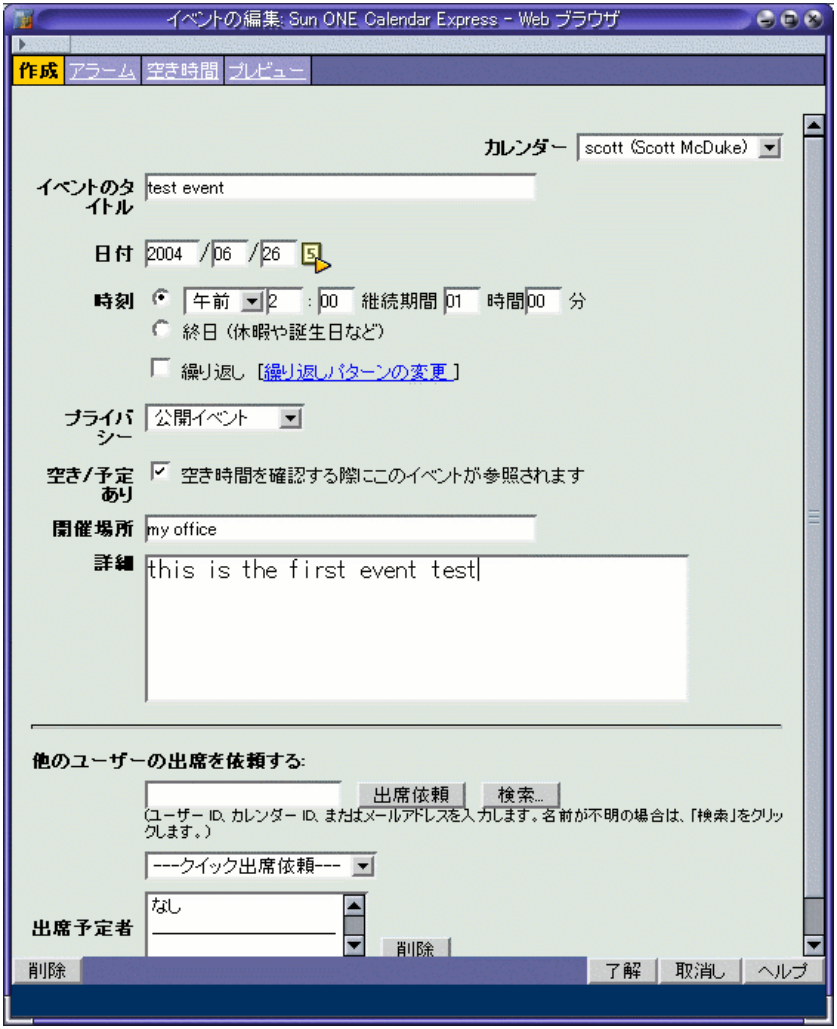
   - ユーザー ID: scott
   - パスワード : password

   「ログイン」をクリックします。Sun ONE Calendar Express のメインウィンドウが表示されます。表示は、図 5-2 のようになります。

図 5-2　Sun ONE Calendar Express のメインウィンドウ

3. 「新しいイベント」をクリックします。「イベントの編集」ウィンドウが開きます。

図 5-3　　「イベントの編集」ウィンドウ



4. 「新しいイベント」ウィンドウで、イベントを定義するために次の値を入力します。
   - イベントのタイトル : Test Event
   - 日付 : (今日の日付を入力)
   - 時刻 : 午前 12:00 継続時間 1:00
   - プライバシー : 公開イベント

- 開催場所 : My Office
- 詳細 : This is my first event test

「了解」をクリックします。

「新しいイベント」ウィンドウが閉じ、Sun ONE Calendar Express のメインウィンドウに戻ります。

5. 作成したイベントが、メインウィンドウに表示されていることを確認します。
6. メインウィンドウの右上隅にある、「ログアウト」をクリックします。

第 6 章

シングルサインオン (SSO) の設定

この章では、ポータルサービス、メッセージングサービス、およびカレンダーサービスの Identity Server シングルサインオン (SSO) を設定する方法について説明します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 「シングルサインオンの概要」
- 104 ページの「Messaging Server のシングルサインオン用の設定」
- 105 ページの「Calendar Server のシングルサインオン用の設定」
- 106 ページの「シングルサインオンの設定の確認」

シングルサインオンの概要

シングルサインオンを有効になっているとき、Java Enterprise System ユーザーは、ユーザー ID およびシステムのパスワードを使用して、一度だけログオンします。ユーザーはアクセスする最初のサービスにログオンします。その後、ユーザーは再度ログインすることなく、他の Java Enterprise System サービスに移動できます。

Java Enterprise System サービスにアクセスするためのゲートウェイは、Identity Server です。ユーザーが最初に Java Enterprise System サービスにアクセスするとき、ユーザーは Identity Server により認証されます。ユーザーが、他の Java Enterprise System サービスに移動するとき、Identity Server は、ユーザーがすでに認証されていることを確認します。ユーザーは、再度ログインすることなく、次のサービスにアクセスできます。

Messaging Server のシングルサインオン用の設定

ここでは、Messaging Server を SSO 用に設定する方法について説明します。

➤ **SSO 用に Messaging Server を設定するには**

1. Messaging Server ディレクトリに移動します。

   ```
   cd /opt/SUNWmsgsr/sbin
   ```

2. 次のように configutil コマンドを実行します。

   a.
   ```
   ./configutil -o local.webmail.sso.amnamingurl
   -v http://allinone.example.com:81/amserver/namingservice
   ```

   ヒント 使用しているホストおよびドメインに必ず置き換えてください。

   b.
   ```
   ./configutil -o local.webmail.sso.amcookie
   -v iPlanetDirectoryPro
   ```

   c.
   ```
   ./configutil -o local.webmail.sso.singlesignoff -v 1
   ```

   d.
   ```
   ./configutil -o service.http.ipsecurity -v no
   ```

3. Messaging Server を停止します。

   ```
   ./stop-msg
   ```

4. Messaging Server を再起動します。

   ```
   ./start-msg
   ```

Calendar Server のシングルサインオン用の設定

ここでは、Calendar Server を SSO 用に設定する方法について説明します。

➤ **SSO 用に Calendar Server を設定するには**

1. Sun ONE Calendar Server ディレクトリに移動します。

   ```
   cd /etc/opt/SUNWics5/config
   ```

2. `ics.conf` ファイルを編集します。次の各パラメータを検索し、次のように変更します。場合によっては、これは値を変更し、行のコメントを外すことを意味します。それ以外の場合は、単に行のコメントを外すことを意味します。

   a. `local.calendar.sso.amcoookiename` を検索します。その項目のコメントを外します。値は、`iPlanetDirectoryPro` に設定したままにします。

   b. `local.calendar.sso.amnamingurl` を検索します。その項目のコメントを外し、値を `http://allinone.example.com:81/amserver/namingservice` に設定します。

   c. `local.calendar.sso.singlesignoff` を検索します。その項目のコメントを外します。値は、`yes` に設定したままにします。

   d. `local.calendar.sso.logname` を検索します。その項目のコメントを外します。値は、`am_sso.log` に設定したままにします。

   e. `service.http.ipsecurity` を検索します。その項目のコメントを外します。値を `no` に変更します。

   f. `render.xslonclient.enable` を検索します。値を `no` に変更します。

3. `ics.conf` ファイルを保存し、終了します。

4. Sun ONE Calendar Server ディレクトリに移動します。

   ```
   cd /opt/SUNWics5/cal/sbin
   ```

5. Sun ONE Calendar Server を停止します。

   ```
   ./stop-cal
   ```

6. Sun ONE Calendar Server を再起動します。

   ```
   ./start-cal
   ```

シングルサインオンの設定の確認

ここでは、シングルサインオンの設定を確認する方法について説明します。

➤ SSO を使用するサービスへのエンドユーザーのアクセスを確認するには

1. Web ブラウザで、次の URL を開きます。

   `http://allinone.example.com:81/portal/`

   ヒント 使用しているホストおよびドメインに必ず置き換えてください。

   Portal Server のサンプルデスクトップが表示されます。

2. 「メンバーログイン」フィールドを使用して、第 4 章で作成したエンドユーザーとしてログインします。次の値を使用します。

   - ユーザー ID: scott
   - パスワード : password

   「ログイン」ボタンをクリックします。デスクトップが更新され、ユーザーに関する情報が表示されます。これにより、ユーザーが正常に作成および設定されたことが確認されます。

   注 ログインしたことにより SSO cooike が設定されます。これにより、ユーザーが再度ログインすることなく、メッセージングサービスおよびカレンダサービスにアクセスできるようになります。

3. Web ブラウザで、次の URL を開きます。

   `http://allinone.example.com:88`

   Messenger Express のメインウィンドウが表示されますが、2 回目はログインプロンプトは表示されません。これにより、SSO が正常に設定されたことが確認されます。

4. Web ブラウザで、次の URL を開きます。

   `http://allinone.example.com:89`

   Sun ONE Calender Express のメインウィンドウが表示されますが、2 回目はログインプロンプトは表示されません。これにより、シングルサインオンが正常に設定されたことが確認されます。

   ヒント 使用しているホストおよびドメインに必ず置き換えてください。

5. Sun ONE Calendar Express のメインウィンドウで、ウィンドウの右上隅にある「ログアウト」をクリックします。

   Calenar Express の「ログイン」ページが表示されます。

6. Web ブラウザで、次の URL を開きます。

   `http://allinone.example.com:81/portal/`

   サンプルポータルの「デスクトップ」ページが表示されます。「メンバーログイン」チャネルが表示され、ログインプロンプトが表示されます。これにより、Calendar Express をログアウトしたことによってすべての Java Enterprise System サービスからログアウトしたことが確認されます。

第 7 章

プロキシ認証の設定

この章では、ポータルデスクトップ、メッセージングサービス、およびカレンダサービスに対して、プロキシ認証を設定する方法について説明します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- 「ポータル「カレンダー」チャネルのプロキシ認証用の設定」
- 113 ページの「ポータル「メール」チャネルのプロキシ認証用の設定」
- 114 ページの「プロキシ認証用の Messaging Server の設定」
- 115 ページの「プロキシ認証用の Calendar Server の設定」
- 116 ページの「プロキシ認証の確認」

プロキシ認証について

デフォルトのポータルデスクトップには、Messaging Server および Calendar Server によって提供される、サービスに接続する「メール」チャネルおよび「カレンダー」チャネルが備えられています。ユーザーがポータルデスクトップを更新するたびに、「メール」チャネルおよび「カレンダー」チャネルは、それぞれのバックエンドサービスに接続し、メールおよびカレンダ情報を取得します。

これらのチャネルに対してプロキシ認証を設定することにより、ポータルデスクトップにメールおよびカレンダ情報をより完全に表示できます。また、ユーザーが、Messenger Express および Calender Express をポータルデスクトップから直接起動できるようにします。

プロキシ認証を有効にするには、次の設定を行う必要があります。

- 両方のポータルデスクトップで SSO アダプタサービスを使用するように設定し、両方のチャネルに対してプロキシユーザーを定義する
- プロキシユーザーからの要求を受け入れるために、Messaging Server および Calendar Server を設定する

プロキシユーザーアカウントは、エンドユーザーの代わりに信頼されたエージェントとして機能します。Messaging Server および Calendar Server のプロキシユーザーアカウントは、エンドユーザーパスワードの認証なしでエンドユーザー認証を得るために存在します。

ポータルサーバーの「メール」および「カレンダー」チャネルの「SSO アダプタ」テンプレートを使用して、プロキシユーザーの名前とパスワードを登録した場合、ポータルデスクトップにアクセスしたエンドユーザーは、再度ログインすることなく、デスクトップからメールサービスおよびカレンダサービスを起動できます。

ポータル「カレンダー」チャネルのプロキシ認証用の設定

サンプルポータル「カレンダー」チャネル用にプロキシ認証を有効にするには、Identity Server コンソールから SSO アダプタサービスを設定します。

➤ **SSO アダプタサービス用にポータル「カレンダー」チャネルを設定するには**

1. Web ブラウザで、次の URL を開きます。

   `http://allinone.example.com:81/portal/`

   Identity Server のログインページが開きます。

2. Identity Server のログインページで、次の値を入力します。

   - ユーザー名 : amadmin
   - パスワード : password

   「ログイン」をクリックします。Identity Server コンソールウィンドウが表示されます。

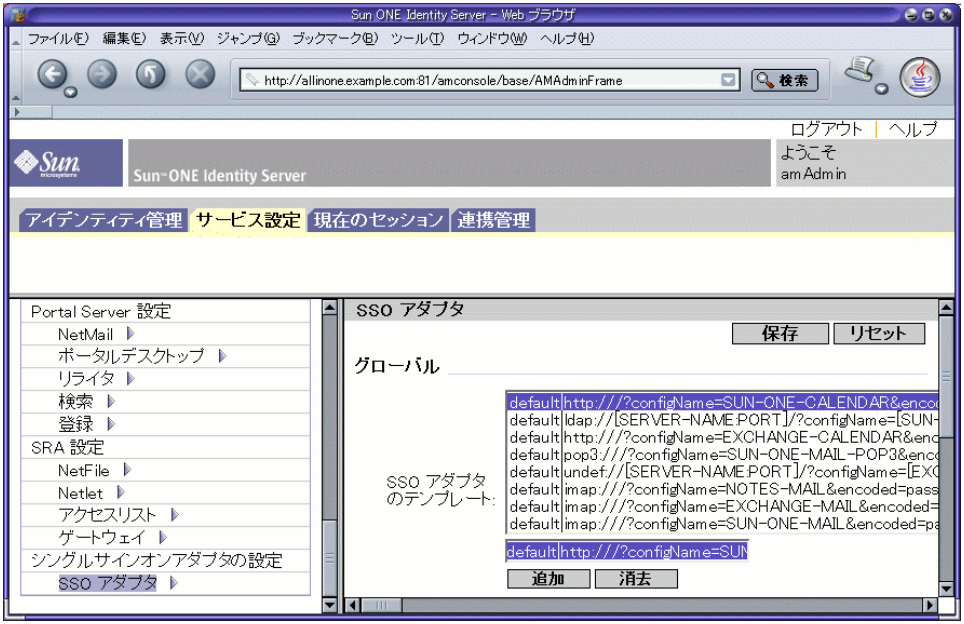
3. 「サービス設定」タブをクリックします。

   Identity Server のサービスが表示されます。

4. 左区画をスクロールダウンします。「SSO アダプタ」を選択し、SSO アダプタ名に続く矢印記号をクリックします。

   表示が更新されます。右区画に、SSO アダプタサービスのプロパティが表示されます。表示は、図 7-1 のようになります。

図 7-1　SSO アダプタプロパティ



5. SUN-ONE-CALENDAR 設定プロパティを編集します。「グローバル」プロパティセクションに、「SSO アダプタのテンプレート」フィールドがあります。SUN-ONE-CALENDAR 設定プロパティを含む行をクリックします。この行が図 7-1 で選択されています。

   「グローバル」プロパティリストの下にある編集可能なフィールドに、編集可能な行のコピーが表示されています。この編集可能なフィールドを使用して、テキストを編集します。

ヒント　テキストエディタを使用して変更を行います。プロパティのリストの下にある編集可能なフィールドに移動し、プロパティの文字列全体を選択します。選択したプロパティの文字列を右クリックし、「コピー」を選択します。

テキストエディタのウィンドウにテキストを貼り付け、手順 5 で説明している変更を行います。

---

   a. merge=host& を検索します。値を default=host& に変更します。

   b. merge=port& を検索します。値を default=port& に変更します。

   c. merge=clientPort& を検索します。値を default=clientPort& に変更します。

d. `enableProxyAuth=false&` を検索します。値を `enableProxyAuth=true&` に変更します。

e. `proxyAdminUid=[PROXY-ADMIN-UID]&` を検索します。値を `proxyAdminUid=calmaster&` に変更します。

f. `proxyAdminPassword=[PROXY-ADMIN_PASSWORD]&` を検索します。値を `proxyAdminPassword=password&` に変更します。

g. `userAttribute=uid` を検索します。値を `userAttribute=uid&` に変更します。

最後に & を追加します。

h. プロパティの文字列の最後に、次の名前と値がペアになったエントリを追加します。

```
host=allinone.example.com&
clientPort=89&
port=89
```

エントリの最後に & はありません。

ヒント テキストエディタを使用して手順 5 で説明されている変更を行った後に、エディタのテキストを選択してコピーします。テキストを、Identity Server コンソールウィンドウの、編集可能なフィールドに貼り付けます。

---

6. 編集可能なフィールドのテキストを編集した後で、「追加」をクリックします。

   新しい行が「SSO アダプタのテンプレート」フィールドに追加されます。元の行が変更または削除されていないことを確認します。

7. 元のパラメータ行を選択し、「消去」をクリックします。

   元の行が削除されます。

8. 「保存」をクリックして、変更を適用します。

ポータル「メール」チャネルのプロキシ認証用の設定

サンプルポータル「メール」チャネル用にプロキシ認証を有効にするには、Identity Server コンソールから SSO アダプタサービスを設定します。

➤ SSO アダプタサービス用にポータル「メール」チャネルを設定するには

1. SUN-ONE-MAIL IMAP 設定プロパティを編集します。「グローバル」プロパティセクションで、default|imap:///?configName=SUN-ONE-MAIL 設定プロパティを含むエントリをクリックします。

   「グローバル」プロパティリストの下にある編集可能なフィールドに、編集可能なエントリのコピーが表示されています。編集可能なフィールドでテキストを編集します。

   ヒント テキストエディタを使用して変更を行います。プロパティのリストの下にある編集可能なフィールドに移動し、プロパティの文字列全体を選択します。選択したプロパティの文字列を右クリックし、「コピー」を選択します。

   テキストエディタのウィンドウにテキストを貼り付け、手順 1 で説明している変更を行います。

   a. merge=host& を検索します。値を default=host& に変更します。

   b. merge=clientPort& を検索します。値を default=clientPort& に変更します。

   c. enableProxyAuth=false& を検索します。値を enableProxyAuth=true& に変更します。

   d. proxyAdminUid=[PROXY-ADMIN-UID]& を検索します。値を proxyAdminUid=admin& に変更します。

   e. proxyAdminPassword=[PROXY-ADMIN_PASSWORD]& を検索します。値を proxyAdminPassword=password& に変更します。

   f. default=domain を検索します。値を default=domain& に変更します。

      最後に & を追加します。

   g. プロパティの文字列の最後に、次の名前と値がペアになったエントリを追加します。

      ```
      host=allinone.example.com&
      clientPort=88
      ```

      エントリの最後に & はありません。

ヒント テキストエディタを使用して手順 1 で説明されている変更を行った後に、エディタのテキストを選択してコピーします。テキストを、Identity Server コンソールウィンドウの、編集可能なフィールドに貼り付けます。

2. 編集可能なフィールドのテキストを編集した後で、「追加」をクリックします。

   新しい行が「SSO アダプタのテンプレート」フィールドに追加されます。元の行が変更または削除されていないことを確認します。

3. 元のパラメータ行を選択し、「消去」をクリックします。

   元の行が削除されます。

4. 「保存」をクリックして、変更を適用します。

5. Sun ONE Application Server ディレクトリに移動します。

   ```
   cd /var/opt/SUNWappserver7/domains/domain1/server1/bin
   ```

6. Application Server を停止し、再起動します。

   ```
   ./stopserv
   ./startserv
   ```

   Application Server の再起動により、Portal Server も再起動されます。

プロキシ認証用の Messaging Server の設定

➤ **プロキシ認証用に Messaging Server を設定するには**

1. Sun ONE Messaging Server ディレクトリに移動します。

   ```
   cd /opt/SUNWmsgsr/sbin
   ```

2. 次の `configutil` コマンドを実行してメール設定を行います。

   ```
   ./configutil -o store.admins admin
   su mailsrv
   ./configutil -o service.http.allowadminproxy -v yes
   ```

   最初の `configutil` コマンドは、Messaging Server メッセージストアを管理ユーザー ID で管理できるようにします。メッセージストアには、特定の Messaging Server インスタンス用のユーザーメールボックスが含まれます。2 番目の `configutil` コマンドは、管理プロキシ認証ができるようにします。

3. Sun ONE Messaging Server を停止します。

```
./stop-msg
```

4. Sun ONE Messaging Server を再起動します。

```
./start-msg
```

プロキシ認証用の Calendar Server の設定

➤ **プロキシ認証用に Calendar Server を設定するには**

1. cd を実行して Calendar Server ディレクトリに移動します。

```
cd /etc/opt/SUNWics5/config
```

2. 次のように、/ics.conf ファイルを編集します。

   a. service.http.allowadminproxy パラメータを検索します。コメントが外れていることを確認します。値が yes に設定されていることを確認します。

   ```
   service.http.allowadminproxy="yes"
   ```

   b. service.admin.calmaster.userid パラメータを検索します。コメントが外れていることを確認します。値が calmaster に設定されていることを確認します。

   ```
   service.admin.calmaster.userid="calmaster"
   ```

   c. service.admin.calmaster.cred パラメータを検索します。コメントが外れていることを確認します。値が password に設定されていることを確認します。異なるパスワードを使用している場合、自分のパスワードに必ず置き換えてください。

   ```
   service.admin.calmaster.cred="password"
   ```

3. cd を実行して Sun ONE Calendar Server ディレクトリに移動します。

```
cd /opt/SUNWics5/cal/sbin
```

4. Sun ONE Calendar Server を停止します。

```
./stop-cal
```

5. Sun ONE Calendar Server を再起動します。

```
./start-cal
```

プロキシ認証の確認

ここでは、ポータルデスクトップにログインし、Messenger Express および Calendar Express にアクセスできることを確認します。

➤ **プロキシ認証が機能することを確認するには**

1. Web ブラウザで、次の URL を開きます。

   `http://allinone.example.com:81/portal`

   これによりサンプルポータルデスクトップが開きます。

ヒント	使用しているホストおよびドメインに必ず置き換えてください。

2. このサンプルポータルデスクトップでは、「メンバーログイン」フィールドを使用してログインします。次の値を入力します。
   - ユーザー名 : scott
   - パスワード : password
3. サンプルデスクトップが更新されます。「カレンダー」チャネルおよび「メール」チャネルは、Java Enterprise System ユーザーに対して適切な情報を表示します。表示は、図 7-2 のようになります。

図 7-2　サンプルポータルデスクトップ

4. 「カレンダーを起動」をクリックします。

   Calender Express のメインウィンドウが表示されます。これにより、プロキシ認証が Sun ONE Calendar Server に対して正常に設定されていることが確認されます。

5. 「メールを起動」をクリックします。

   Messenger Express のメインウィンドウが開きます。これにより、プロキシ認証が Sun ONE Messaging Server に対して正常に設定されていることが確認されます。

6. 「ログアウト」をクリックします。

評価の配備例は以上で完了です。

索引

A

Application Server
- インストール値 , 36
- 管理サーバー , 56
- 起動 , 56
- デフォルトインスタンスの設定 , 57
- 論理アーキテクチャ内 , 22

C

Calendar Express
- イベントのスケジュール , 100
- ポータルデスクトップからのアクセス , 109, 117
- ログイン , 100

Calendar Server
- Directory Server との相互運用 , 63
- インスタンスの作成 , 76
- シングルサインオン用の設定 , 105
- プロキシ認証の設定 , 115
- 論理アーキテクチャ内 , 22

D

Directory Proxy Server
- インストール設定 , 38

Directory Server
- Sun ONE LDAP スキーマ , 64
- インストール値 , 37
- 管理サーバーでの管理 , 51
- 起動 , 52
- 設定 , 63
- デフォルトインスタンス , 52
- 論理アーキテクチャ内 , 22

I

Identity Server
- Application Server で稼動 , 59
- Identity Server サービスのインポート , 82
- インストール設定 , 38
- 管理コンソール , 59
- デフォルトインスタンス , 59
- プロビジョニングサーバーとして設定 , 82
- ログイン , 59
- 論理アーキテクチャ内 , 22

Identity Server サービス , 82

J

Java Enterprise System、ユーザー , 81

M

Messaging Server
- Directory Server との相互運用 , 63
- Messenger Express, 71
- WebMail ポート , 75
- インスタンスの作成 , 62, 70
- 起動 , 75
- シングルサインオン用の設定 , 104
- 設定 , 62, 70
- 停止 , 75
- プロキシ認証の設定 , 114
- 論理アーキテクチャ内 , 22

Messenger Express
- インストール中 , 71
- 電子メール送信 , 99
- ポータルデスクトップからのアクセス , 109
- ログイン , 98

P

Portal Server
- インストール値 , 43
- サンプルポータル , 43
- デフォルトインスタンス , 61
- 論理アーキテクチャ内 , 22

S

Sample Calendar Server Service、登録 , 88

Sample Mail Server Service、登録 , 88

Sun ONE LDAP スキーマ , 64

W

Web Server、インストール値 , 36

あ

アーキテクチャ
- 配備 , 23
- 論理 , 21

アカウント、エンドユーザー , 81

アンインストーラ , 48

い

インストーラ
- 起動 , 29
- 共通サーバー設定 , 36
- 共有コンポーネントのアップグレード , 46
- コンポーネントの依存性の検出 , 32
- コンポーネントの選択 , 30
- サンプルポータルのインストール , 43
- システムコンポーネントの設定 , 35
- 設定モード , 34
- デフォルト値 , 36
- ログファイル , 33

インストール要件 , 28

え

エンドユーザー
- アカウント , 81
- プロビジョニング , 81

エンドユーザーのプロビジョニング , 81, 91

か

管理サーバー
- Directory Server の管理 , 51
- インスタンスの作成 , 62
- インストール設定 , 37
- 起動 , 51
- サーバーコンソールのインタフェース , 52

き

共通サーバー設定 , 36

さ

サーバーコンソール
起動 , 52, 66
ディレクトリツリーの表示 , 53, 66

し

システムコンポーネント
Java Enterprise System 内 , 20
依存性 , 32
インストーラよって設定されない , 35
インストーラによって設定される , 35
選択 , 30
配備アーキテクチャ内 , 23
論理アーキテクチャ内 , 21
使用例、リスト , 20
シングルサインオン
Calendar Server の設定 , 105
Messaging Server の設定 , 104
定義済み , 103

そ

組織、ディレクトリツリー内 , 68

て

ディレクトリサーバー準備ツール , 63
ディレクトリツリー
サーバーコンソールでの表示 , 53, 66

は

配備アーキテクチャ
概要 , 23
実装 , 25
配備のシナリオ , 21
システム要件 , 23
論理アーキテクチャ , 21
パスワード
LDAP, 39
デフォルト値 , 36

ふ

プロキシ認証
Calendar Server の設定 , 115
Messaging Server の設定 , 114
定義済み , 109
ポータルチャネルの設定 , 110
「メール」チャネルの設定 , 113

ほ

ポータルデスクトップ
ログイン , 61, 97

ま

マニュアル , 14

ゆ

ユーザーデータの追加 , 91
ユーザーのプロビジョニング , 91

ろ

ログファイル , 33, 47, 51
論理アーキテクチャ , 21